

2017年度 建築学部 「学修の手引」 正誤表

ページ	項目	訂正内容	
		誤	正
p.12	■2017年度入学生の卒業要件表欄外の注釈 (AP、SA、UAコース)	※全学共通科目はすべて自由科目であり、卒業要件には参入されません。	※全学共通科目群には自由科目があります。自由科目は卒業要件に含まれません。

2023年7月

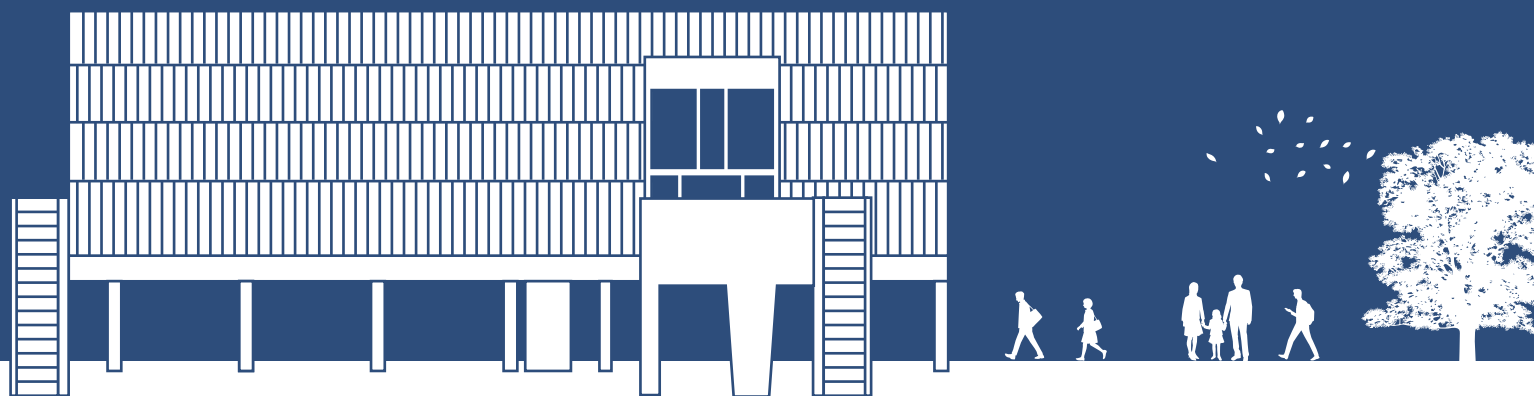
豊洲学事部学生課

2017年度

学修の手引

建築学部

School of Architecture



芝浦工業大学

2017年度

学修の手引

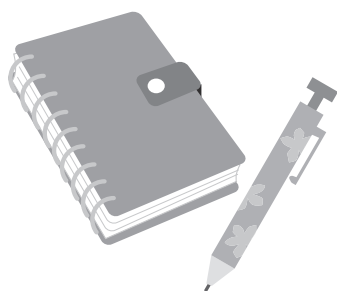
建築学部

School of Architecture

建築学部
学修の手引
目次

I 教育方針・体系 4

1 建築学部の教育方針	4
1. 建築学部の教育理念	4
2. 建築学部の学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	4
2 建築学部の教育体系	5
1. 建築学部のカリキュラム・ポリシー	5
2. 全学共通科目群	5
3. 共通・教養科目群	6
4. 専門科目群	6
5. コース教育について	7
6. 専門分野・研究室について	7
3 学 籍	9
1. 学籍とは	9
2. 学籍の異動	9
4 卒業要件、卒業研究着手条件、 進級停止条件	12
1. 卒業要件	12
2. 進級停止条件	13
3. 卒業研究着手条件	13
5 授業と単位	14
1. 授 業	14
2. 単 位	14
3. 単位の区分	14
4. 学 期	15
5. 授業時間	15
6. 休 講	15
7. 補 講	15
8. 欠 席	15
6 履 修	16
1. 履修登録とは	16
2. 履修登録の流れ	16
3. 他学部の科目を履修する場合 (他学部履修)	18
4. 建築学部のおコースの専門科目を 履修する場合(他コース履修)	18
5. 履修登録科目の確認	18
6. 学外単位等認定制度について	19



7	試験およびレポートなど	21
1.	試験に関する注意事項	21
2.	追試験	22
3.	不正行為	22
8	成績	23
1.	成績評定基準と成績通知書等への 表記	23
2.	成績通知書	23
3.	成績の確認期間	23
4.	GPA	24

II 授業科目 25

1	全学共通科目群	25
2	共通・教養科目群	27
1.	数学科目	29
2.	物理学	29
3.	化学科目	29
4.	英語科目	30
5.	人文社会・情報系教養科目	32
6.	体育・健康科目	34
3	専門科目群	36
1.	専門科目群の概要	36
2.	専門科目群の特徴	37
3.	コースによる教育について	37
4.	APコースの特徴	38
5.	SAコースの特徴	40
6.	UAコースの特徴	42
4	建築学部科目配当表	46
	全学共通科目群	46
	共通・教養科目群	47
	専門科目群（APコース）	50
	専門科目群（SAコース）	53
	専門科目群（UAコース）	55

III 特色ある科目 57

環境教育科目	57
地域志向科目	58
社会的・職業的自立力育成科目	59
アクティブ・ラーニング科目	61

IV 資格の取得 62

1. 取得できる主な資格	62
2. 建築士 （一級建築士、二級・木造建築士）	63

I 教育方針・体系

1 建築学部の教育方針

1 建築学部の教育理念

- 21世紀の現在、私たちは地球温暖化をはじめとする世界規模の深刻な環境問題に直面しています。一方、日本においては、少子化・高齢化にともなう人口減少により、家族構成の変化や一人暮らし世帯の増加など、人々の生活スタイルが変化・多様化しています。また、東日本大震災における地震や津波などの被害は甚大であり、かつてないほど人々の安心・安全への意識が高まっています。これにより、建築が生み出す人々の生活空間に対する価値観は急速に変化・多様化し、中長期的には建築に対する人々のニーズは大きく複雑化することでしょう。
- こうした建築的課題を解決するため、建築学部は、豊かな感性と技術力を身につけた高い志を持つ建築の専門家を養成します。人々の暮らしを支える建築や都市の分野で、何のために・誰のために・どのようにつくるべきかを考え、実現できる専門家です。また、社会や時代の変化を見据え、既存の価値観にとらわれず、自らの意思と行動力をもって、場所・地域・国を問わずに活躍できる専門家でもあります。学生が、そのために必要な自然科学、哲学、歴史、文化、経済、政治など、広範な分野の深い理解力と豊かな感性を身につけ、そして、人々の役に立ち喜びをもたらす建築に生涯情熱を持ち続ける人間となること、それが建築学部の目標です。

2 建築学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- 建築学部は、自然科学や人文社会科学を含んだ学際的視点を持ち、豊かな建築・都市空間の創造により社会に貢献できる能力、また、多様な価値観が共存する21世紀の世界に適應できる能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

■ 学修・教育目標

- 歴史的発展を踏まえて建築を捉え、現代の建築を取り巻く技術的・社会的問題を理解できる。
- 自然・社会・人間に深く関わる建築に、専門家としてたずさわるための高い倫理観を身につけている。
- 自然科学や人文社会科学に関する基礎知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身につけている。
- 世界と社会の多様性を認識し、高いコミュニケーション能力を持ち、21世紀のグローバル社会で活躍できる国際感覚とチームで仕事ができる能力を身につけている。
- 豊富な教養と幅広い知識を統合・駆使し、建築や都市をめぐる現代的課題を解決できる。
- 課題の発見・解決のために、建築に関わる広範な知識・技術を自ら進んで探求し、理解しようとする姿勢を身につけている。

2 建築学部の教育体系

1 建築学部のカリキュラム・ポリシー

- 建築学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、これからの時代に建築を「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」を重視します。そのため、建築の専門科目に加えて多様な共通教養科目によってカリキュラムを構成し教育を行います。
- 専門科目が建築学の専門性を高めるための科目であるのに対し、共通教養科目は自然科学の一般法則の知識とその運用方法、基本的な外国語・コミュニケーション能力、社会・文化に関する教養などを身につけるための科目です。また、「建築デザイン」、「工学」、「幅広い教養」の融合を実現するため、専門性の高い科目と基礎・教養科目の横断的な学修を促し、各科目間の相乗効果を生むようカリキュラムを設計しています。これらの教育課程編成方針に基づき、以下の科目構成により授業を実施します。

① 専門科目では建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識と倫理観を身につけることを狙いとした科目を配置しています。

② 共通教養科目では、数学・理科・英語のほか、幅広い分野を持つ人文社会系科目を中心に構成し、年次を通じて履修可能とすることで専門教育との横断的融合を実現します。

③ 講義科目で学んだ知識を演習・実習科目で実践することで理解を深めていくことを基本としますが、実社会や現場の体験から得られる視点やコミュニケーション能力も重視しています。そのため、国内外でのプロジェクト型実習科目も豊富に配置しています。

- 上記の各授業科目においては知識の伝達のみならず、学生同士や教員との双方向のやり取りを通じて専門知識の深化とコミュニケーション能力の向上を図ります。なお、建築学部では学生が無理のない学修計画を立てられるよう、年間に履修できる科目数に制限を設けています。
- 各授業科目に評価方法・評価基準を設定し、学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、建築学部の学修・教育到達目標を達成します。

2 全学共通科目群

全学共通科目群では、「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」という芝浦工業大学の建学の精神と、近年のグローバル化した技術環境の変化を踏まえ、全学部の学生が受講できる学部を超えた共通科目を開講しています。

- 全学共通科目は、「芝浦工業大学通論」、「Japanese Language」、「ダイバーシティ入門」などの科目から始め、少しずつ充実させていく予定です。技術経営、キャリア形成、メンタルヘルスなどに関する科目を想定しています。

3 共通・教養科目群

共通・教養科目群では、建築学の専門教育の修得に必要な基礎学力を確保することと、専門領域にとらわれないより広い立場での人間教育を行うことを目的としています。

- 共通・教養科目群は、数理基礎科目、外国語科目、人文社会・情報系教養科目、体育・健康科目で構成され、それぞれの分野の基本的な考え方に触れることによって、幅広い視野の確立や複眼的なものの見方のできる人間教育を行います。すなわち、本学の設立理念である「社会に学び、社会に貢献する」技術者としての社会的立場と役割を認識できるようになるために不可欠な知識と教養を身につけます。

1 数理基礎科目	技術者として生き抜くには、自然科学の原理や方法論を学び、新たな素材の生成や現象の定式化の方法と定式化された式の解法を身につけなくてはなりません。そこで、数学・物理学・化学の基本的な考え方とその手法についての教育を行います。
2 外国語科目	言語科目である英語を中心に構成されています。学問領域のみならず社会との繋がりの中で、情報を得、理解し、そして発信するために必要とされる言語・情報の知識と技能を修得するための教育を行います。
3 人文社会・情報系教養科目	建築・都市と人間や社会との関わりについての幅広い知識や視野、考え方、倫理観を身につけるとともに、現代の建築に不可欠な情報技術についての知識・技能の修得を目的とする科目です。人間の心理や行動、多様な文化や思想、専門家としての倫理観、法律や経済システム、今日の世界が直面する様々な問題に関する授業を開講しています。また、コンピュータやソフトウェア、ネットワーク、プログラミングに関する授業を開講しています。
4 体育・健康科目	講義では、心と身体の健康の維持、増進するための知識・方法を修得することを目的とします。演習では、様々な測定を通して自身の問題点を明確にし、効果的な運動の実践方法を学びます。身体的コミュニケーションスキルでは、コミュニケーションの基礎となるスポーツマンシップを実践し、安全に身体活動を行い、生活習慣の改善にも取り組みます。

4 専門科目群

「共通・教養科目」が自然科学の一般法則の知識とその運用方法、基本的な外国語能力・コミュニケーション能力、人間の社会・文化に関する教養などを身につけるための科目群であるのに対し、「専門科目」は、建築学そのものの専門性を高めるために修得するべき科目群です。

- 建築学部の専門科目は、「建築総合」、「設計・演習」、「設計・計画」、「都市・地域」、「建築史」、「構法・生産」、「環境・設備」、「構造」、「材料」、「実験」に分類され、それぞれの分野の基礎から応用までを幅広くカバーしています。
- 建築学部では専門科目による教育を段階的に実施するため、1年次～3年次前期を専門基礎課程、3年次後期～4年次後期を専門応用課程と位置づけています。専門基礎課程では、一級建築士受験資格取得を念頭に、建築学の基礎となる「建築デザイン基礎」、「構造力学」、「建築環境工学」、「材料力学」などを学生全員で共通して履修できるようにしています。また、これらの基礎的な科目をベースとして、建築学部建築学科の各コースの専門性を反映したコース独自の専門科目も配置しています。専門応用課程ではより専門性の高い科目の履修が可能となるとともに、「プロジェクトゼミ」、「卒業研究」など卒業論文や卒業制作に向けた科目の履修が可能となります。

5 コース教育について

建築学部では上記の科目群について、入学時から3つのコースに分かれて教育を行います。

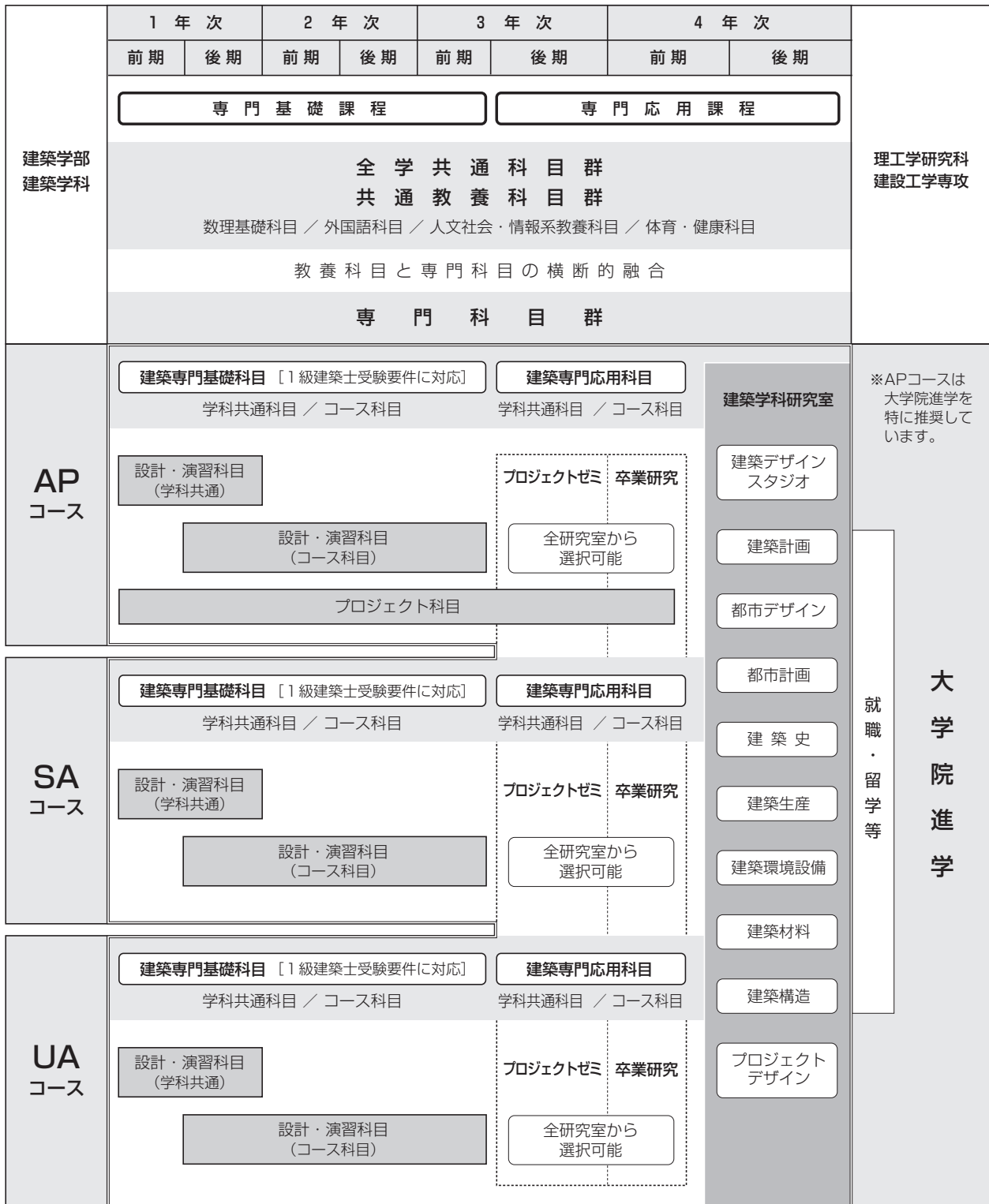
- ①「APコース (Advanced Project Design Course : 先進的プロジェクトデザインコース)」
災害復興、地域再生、エネルギー・環境問題などに取り組む先進的なプロジェクトを通して、グローバルな視点から建築・都市・空間をデザインします。
- ②「SAコース (Space and Architectural Design Course : 空間・建築デザインコース)」
身の回りの空間から住宅、建築などのスケールに重心を置き、幅広い領域の建築技術を総合し、建築・都市・空間をデザインします。
- ③「UAコース (Urban and Architectural Design Course : 都市・建築デザインコース)」
人びとの生活する建築から都市、まちづくりなどのスケールに重心を置き、幅広い領域の建築技術を総合し、建築・都市・空間をデザインします。

- 「建築デザイン基礎」、「力学の基礎」、「建築環境工学」、「BIM演習」などの専門科目と、数学・物理・化学・英語をはじめとする教養科目は、所属するコースに関係なく学科共通で開講します。その際、複数のクラスに分けることで少人数教育を実現し、学修効果を高めます。また、すべてのコースにおいて、基礎となる知識・技術の修得を徹底し、建築に必要な知識・技術の土台づくりに注力し、全コースで一級建築士受験要件を満たすようカリキュラムを工夫しています。
- これらの学科共通のカリキュラムの特徴に加え、各コースの特徴にあわせた「コース科目」を開講し、それぞれのコースの専門性を高められるよう工夫しています（※詳細はⅡ 授業科目 3 専門科目群を参照）。

6 専門分野・研究室について

- 建築学部は10分野32研究室を擁し、建築学の幅広い専門分野をカバーしています。これにより、皆さんの向学心に応じて教育にあたります。また、3年次後期の「プロジェクトゼミ」と4年次の「卒業研究1・2」では所属するコースに関わらずすべての研究室から自らの専門分野を主体的に選択できます。これにより、専門分野の理解を深めながら、実践的な研究を進めることができます。

■ 教育体系図



都心キャンパス一貫教育

3 学籍

1 学籍とは

本学の入学者選考試験に合格し、所定の入学手続きを行い『学生証』の交付を受けた者は、本学の『学籍』を取得し、本学で教育を受け、研究活動を行える『学生』としての身分を有します。

- また、『在学』とは本学の学籍を有する学期において修業していることをいいます。
- 芝浦工業大学の学生であることの自覚と誇りを持って行動してください。

項目	内容
修業年限	本学の教育課程を修了するために必要な期間は『4年』です。
在籍期間	本学に在籍することができる期間は『8年』です。
卒業	卒業とは、4年以上在学し、かつ所定の科目と単位を取得することで、本学の学生としての身分を終了することです。 卒業者には、学士の学位が授与されます。

2 学籍の異動

- 以下の事項に該当する場合には所定の手続きが必要となります。

項目	内容
留年	留年とは ①単位の取得状況が悪く自主的に留年する場合。 留年する場合はクラス担任と面談の上、3月上旬までに『留年願』にて願い出てください。(願い出がない限り留年とはなりません) ②2年次終了時に進級停止条件に該当する場合。 『進級停止』となり自動的に留年となります。 願い出は必要ありません。 ③4年次終了時に卒業要件を満たせなかった場合。 『卒業停止』となり自動的に留年となります。 願い出は必要ありません。
休学	休学とは 傷病その他やむを得ない理由で、一定期間(2ヶ月以上)修業しないことをいいます。 休学する場合は『休学願』が必要です。 ①クラス担任と面談してください。 ②傷病の場合は医師の診断書を添えて提出してください。
休学期間	原則として休学期間は1ヶ年以内として、 前期休学 4月1日～同年9月30日 後期休学 10月1日～翌年3月31日 通年休学 4月1日～翌年3月31日 に区分されます。これとは別に、期の途中からの休学もあります。

項 目		内 容	
休 学	願い出の期間	前期および通年休学：3月上旬まで 後 期 休 学：9月上旬まで	詳しい日程については、掲示などで確認をしてください。期の途中からの場合には学生課に相談してください。
	在籍期間等との関係	休学期間は在籍期間の8年に算入します。 ただし、休学期間は在学期間には算入しません。	
	履修登録	休学した学期には履修登録をすることができません。 期の途中から休学をする場合、履修登録した科目の履修は無効となります。	
	学 費	願い出の期間中に休学を願い出て許可された場合、休学する学期の学費のうち授業料を免除します。	
復 学	復学とは	休学期間を満了し、在学状態に戻ることをいいます。	
	願い出の期間	休学期間満了者には大学より『復学願』を送付しますので、前期より復学を希望する者は3月上旬、後期より復学を希望する者は9月上旬の指定された期日までに提出してください。期日までに提出しない者は除籍を命じられます。(学則より)	
	学 費	復学した学年所定の学費を納入することになります。	
退 学	退学とは	事情により自主的に退学を希望する場合	① クラス担任と面談してください。 ② 『退学願』にて願い出るとともに、学生証を返却してください。
		退学を命じられる場合 (学則より)	① 入学誓約書に違反した者 ② 性行不良で学生の品位を乱し、改善の見込みがないと認められた者 ③ 学力劣等で成業の見込みがないと認められた者 ④ 正当な理由がなく常に出席しない者 ⑤ 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
	願い出の期間	退学を希望する場合は『退学願』が必要です。 原則として、退学日は退学を願い出た学期の末日となります。 ● 前期末退学の願い出：9月上旬まで ● 後期末退学の願い出：3月上旬まで 詳しい日程については、掲示などで確認してください。 退学を命じられる場合はこの限りではありません。	
学 費	退学を願い出る者は、その学期までの学費が納入済みでなければ退学は認められません。期日までに納入しない者は除籍を命じられます。(学則より)		
除 籍	除籍とは	以下の者は除籍を命じられます。(学則より) ① 行方不明の届け出のあった者 ② 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者 ③ 在籍年数8年を超えた者 ④ 休学期間満了となっても復学等の手続きをしない者	
停 学	停学とは	以下の者は懲戒処分として停学を命じられます。(学則より) ① 本学の学則にそむいた者 ② 学生の本分に反する行為があった者 停学期間は在学期間には算入されません。	

項 目		内 容
転部・転科	転部・ 転科とは	転部とは、在籍学部・学科から他学部への移籍のことをいいます。 建築学部の学生で転部を希望する者には、移籍希望学部・学科の定める選考（筆記試験・面接等）が課されます。なお、移籍を希望する学部・学科が当該年度に転部・転科選考を実施するとは限りません。
	学 年	移籍後の学年は、原則として2年次とします。
	学 費	移籍先学科・学年所定の学費を納入することになります。
再入 学	再入学とは	本学を退学した者（退学を命じられた者を除く）または、学費未納で除籍となった者が再入学を願い出た時は、退学または除籍までの在籍期間を8年から除いた期間以内で卒業見込みのある者に限り、再入学を許可されることがあります。
	願い出の期間	前期から再入学希望の場合は前年12月上旬まで、後期から再入学希望の場合は当年5月下旬までに願い出てください。 詳しい日程については、学生課まで問い合わせてください。
	学 費	再入学した学年所定の学費を納入することになります。

4 卒業要件、卒業研究着手条件、進級停止条件

1 卒業要件

- 4年以上在学し、コースごとに定める下表の単位を取得すること。
- 所定の方法で算出したGPAが2.0以上であること（※GPAについてはI教育方針・体系8成績を参照）。

① APコース

科目区分	全学共通科目群	共通・教養科目群					専門科目群					卒業要件	
		数理基礎科目		外国語科目	人文社会・情報系教養科目	体育・健康科目		必修	コース必修	選択必修1群	選択必修2群		選択
		数学科目	理科学目	英語科目		理論科目	身体的コミュニケーションスキル科目						
単位数	※	8単位以上		8単位以上	12単位以上			13単位	6単位	1単位以上	2単位以上	50単位以上	124単位以上
		32単位以上											

※全学共通科目はすべて自由科目であり、卒業要件には参入されません。

② SAコース

科目区分	全学共通科目群	共通・教養科目群					専門科目群				卒業要件	
		数理基礎科目		外国語科目	人文社会・情報系教養科目	体育・健康科目		必修	コース必修	選択必修3群		選択
		数学科目	理科学目	英語科目		理論科目	身体的コミュニケーションスキル科目					
単位数	※	8単位以上		8単位以上	12単位以上			13単位	6単位	2単位以上	51単位以上	124単位以上
		32単位以上										

※全学共通科目はすべて自由科目であり、卒業要件には参入されません。

③ UAコース

科目区分	全学共通科目群	共通・教養科目群					専門科目群				卒業要件	
		数理基礎科目		外国語科目	人文社会・情報系教養科目	体育・健康科目		必修	コース必修	選択必修4群		選択
		数学科目	理科学目	英語科目		理論科目	身体的コミュニケーションスキル科目					
単位数	※	8単位以上		8単位以上	12単位以上			13単位	6単位	2単位以上	51単位以上	124単位以上
		32単位以上										

※全学共通科目はすべて自由科目であり、卒業要件には参入されません。

2 進級停止条件

- 2年次終了時点における総取得単位数が**62単位未満**の場合、進級停止とする。
※上記の場合、2年次に留年となります。

3 卒業研究着手条件

- 3年次終了時点における総取得単位数が**110単位以上**であること。
※上記の条件を満たさない場合、4年次に進級しても卒業研究に着手することができないため、当該年度に卒業することができません。

5 授業と単位

1 授業

- 授業には、以下の形態があります。

講義科目	学科で教授すべき知識を体系的に整理し、講義形式で行う科目です。
講義以外の科目	演習・設計・製図・実験・実習・実技などで、知識を体得させ、現象に触れてイメージを描き、自ら創造・計画する能力を育成する科目です。

2 単位

- 単位とは、授業科目の学修量を数値化したものです。
- 教育課程（カリキュラム）に従い科目を履修し、試験等に合格することによって、その科目の単位を取得したものと認められます。
- 各授業科目の1単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とします。単位数は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によって計算されます。
 - ① 講義及び演習の授業科目については、15時間から30時間までの授業をもって1単位とする。
 - ② 実験、実習及び実技等の授業科目については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
 - ③ 卒業研究については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。
- 2単位の講義科目の場合、90時間の学修が必要となります。講義1時限は100分間なので、大学での授業時間に加えて、自学による事前準備（予習）と確認（復習）の学修が求められています。
- 授業は事前準備（予習）を前提として行われますので、シラバスに書かれている予習項目にしっかりと取り組み、授業に出席してください。また、次回の授業までにその回の授業の確認（復習）を行い、理解をより一層深めることに努めてください。授業を欠席することは、学修内容の未達につながります。

3 単位の区分

- 単位は以下の三つに区分され、各年次に配当されています。

必修科目	修得を義務付けられた科目です。卒業時までには必ず単位を取得しなければなりません。	
選択科目	コース必修科目	所定のコースで卒業までに必ず取得しなければならない科目です。
	選択必修科目	特定する授業科目群から指定の単位数を卒業時までには必ず取得しなければなりません。建築学部では1群から4群を設定しており、コース毎にそれぞれの群から取得すべき単位数を定めています。詳細は各コースの科目配当表を参照してください。
	選択科目	各自の関心や必要に応じて自主的に選択する科目です。
自由科目	各自の関心や必要に応じて自主的に選択する科目ですが、卒業要件に含まれません。	

4 学 期

- 本学は、1年間で二つの学期に分ける二学期制（セメスター）と1年間で四つの学期に分ける四学期制（クォーター）を採用しています。セメスターは、概ね14週間で完結し、クォーターは概ね7週で完結します。
- 二学期制の時期を特定しない場合には「セメスター」を使用します。セメスターの時期を特定する場合には「前期」「後期」を使用します。その略号として「1S」「2S」を使用します。
- 四学期制の時期を特定しない場合には「クォーター」を使用します。クォーターの時期を特定する場合には、「第1クォーター」「第2クォーター」「第3クォーター」「第4クォーター」を使用します。その略号として「1Q」「2Q」「3Q」「4Q」を使用します。

5 授業時間

第1時限	9:00～10:40
第2時限	10:50～12:30
第3時限	13:10～14:50
第4時限	15:00～16:40
第5時限	16:50～18:30
第6時限	18:40～20:20

- 授業に出席するときは、学生証を教室のカードリーダーに必ずかざして出席登録をしてください。出席認証開始時間は、第1時限と第3時限の場合には授業開始30分前から、それ以外の時限では授業開始10分前からです。

6 休 講

- 担当教員の学会、病気、その他の理由などにより予定していた授業ができなくなる場合、担当教員の判断で休講になることがあります。
- 休講の情報は、その都度、掲示にて発表します。また、ホームページ、携帯電話やS*gsotから確認することができます。
- これとは別に、台風など自然災害などの際には、大学として臨時休校措置をとることがあります。

7 補 講

- 上記の休講措置がとられた場合には、補講が行われます。また、予定していた授業内容が全て終了しない場合には、担当教員の判断で補講が行われます。
- 補講は原則として授業期間中に行われます。補講日程は掲示にて発表します。また、ホームページ、携帯電話やS*gsotから確認することができます。

8 欠 席

- やむを得ない理由で授業を欠席した場合は、欠席の理由を証明する書類（医師の診断書、3親等以内の親族の会葬御礼など）を持参の上、学生課に申し出てください。「欠席届」が発行された場合は、担当教員に提出してください。ただし、「欠席届」の取り扱いは、担当教員に一任されます。

6 履 修

1 履修登録とは

大学では必修科目を除き、自分が受ける授業科目を自主的に決めることができます。そのため、自ら立てた学修計画に従って履修する授業科目を決めて、必修科目を含めて登録しなければなりません。これを「履修登録」といいます。

- 履修計画を立てる際は、必修科目である4年次の卒業研究に着手するための条件や卒業要件を成立させるよう、また進級停止条件などに該当しないよう注意してください。
- 履修登録は、前期および後期の授業開始前後に設けられている履修登録期間内にS*gsot（ガソット）で行います。履修登録の期間については、掲示やWebページでお知らせします。分からない場合は学生課に相談してください。

2 履修登録の流れ

1 時間割案の作成

- 4月の授業開始前に行われるガイダンスでの学修指導を受け、授業時間割を基に各自の時間割案を作成します。各授業科目の講義内容はWebページ内のシラバス検索システムを参照してください。
注) 時間割は変更になることがありますので、変更部分については、Webページにて確認してください。
- 新入生については時間割および「ガイダンス日程」を確認し、「新入生ガイダンス」で学修指導を受けてください。在学生のガイダンスの日程は各校舎の掲示板およびWebページの「ガイダンス・定期健康診断スケジュールについて」で各自確認してください。

2 授業科目のガイダンスについて

- 各授業科目の授業内容に関するガイダンスは、原則として初回の授業の中で行われます。なお、大宮キャンパスで実施される体育実技については、実技の種目にかかわらず、大宮キャンパス第1体育館でガイダンスを行いますので、授業開始時刻に第1体育館に集合してください（豊洲キャンパス開講科目は初回授業実施場所に集合してください）。

3 履修制限について

全学共通科目および共通・教養科目では、教育効果を考慮して履修可能な人数を制限する場合があります。

- 履修制限対象科目については履修制限人数を超えた場合に抽選を行います。

【履修登録する際の注意事項】

- 自分が履修する科目は必修科目も含めて登録しなければなりません。履修登録期間後、必ず各自で登録科目の確認をしてください。確認期間を過ぎてからの履修登録はできません。
- 履修登録できる単位数の上限は、原則、**年間48単位**です（集中講義科目、自由科目を除く）。
- 通年開講科目および前期開講科目（第1クォーター・第2クォーター開講科目を含む）は前期履修登録期間内に登録し、後期開講科目（第3クォーター・第4クォーター開講科目を含む）は後期履修登録期間内に登録してください。
- 集中講義は、時間割表に記載されている開講期の履修登録期間に登録してください。
- 上級学年に担当されている科目は履修できません。
- 他学部科目の履修登録は、指定期間内に申請書を提出してください。
- 原則として同一曜日・時限に2科目以上履修（重複履修）することはできません。
- 履修した科目が不合格となった場合、改めてその科目を履修することを「再履修」といいます。すでに合格して単位認定を受けた科目は再履修できません。
- 前期履修科目の成績評価が「不合格（D・F）」であった場合、専門科目（「卒業研究1・2」を除く）以外の科目は、原則として後期に同一科目を再履修することができます。
- 原則として、直前学期の学費が全額納入されていない場合は履修登録できません。

3 他学部の科目を履修する場合（他学部履修）

他学部履修制度は、幅広い分野の科目の聴講を目的とするもので、在籍学部・学科の科目として開講されていない授業内容の科目が対象です。他学部の科目を履修する場合は、次の事項に注意して学生課窓口で登録申請を行ってください。

- ① 各キャンパス学生課窓口で、各学期の授業開始日から履修登録締切日までに『他学部・他学科開設科目履修申請書』を申請する科目につき1枚ずつ受け取ってください。
- ② 他学部履修をする場合は、授業科目の担当教員の履修許可が必要です。
- ③ 申請書に必要事項を記入し、授業出席時に担当教員の許可サインをもらい、学生本人が履修登録締切日までに学生課へ提出してください。なお、担当教員に直接申請書を提出しても、当該科目の履修登録はされません。
- ④ 他学部履修科目の卒業要件への算入可否の審査は建築学部で行い、審査結果は後日通知します。
- ⑤ 他学部履修申請した科目の履修取り消しはできません。
- ⑥ 他学部の科目は、在学中に30単位を限度に取得することができます。

4 建築学部のおコースの専門科目を履修する場合（他コース履修）

- 建築学部では所属するコースで開講されていない他のコースの専門科目の履修を一部認めています。ただし、当該科目の履修状況により他コース履修が出来ない場合がありますので注意してください（Ⅱ 授業科目 3 専門科目群を参照）。
- 他コースの科目を履修する場合は、次の事項に注意して学生課窓口で登録申請を行ってください。
 - ① 各キャンパス学生課窓口で、各学期の授業開始日から履修登録締切日までに『他コース開設科目履修申請書』を申請する科目につき1枚ずつ受け取ってください。
 - ② 他コース履修をする場合は、授業科目の担当教員の履修許可が必要です。
 - ③ 申請書に必要事項を記入し、授業出席時に担当教員の許可サインをもらい、学生本人が履修登録締切日までに学生課へ提出してください。なお、担当教員に直接申請書を提出しても、当該科目の履修登録はされません。
 - ④ 他コース履修申請した科目の履修取り消しはできません。

5 履修登録科目の確認

- 履修登録をした科目は、S*gsotに表示されます。また、履修登録通知書もS*gsotからダウンロードできますので、正しく登録されているかを必ず確認してください。
- この確認を怠り、履修登録されていない授業に出席し、試験を受けても単位は認定されません。
- 誤って登録した科目については確認期間中に適切に手続きをしてください。手続きを怠った場合、不合格（0点）となります。

6 学外単位等認定制度について

- 建築学部の学生が入学前および在学中に本学以外の「他大学等教育機関（注記参照）」で単位を取得した場合、それが本学における教育上有益と認められる時には、本学の単位として60単位を上限として認定されます。なお、学士入学、編入学、転部・転科をした学生については、別に定める所により既修得単位の認定を受けることができます。

注) 「他大学等教育機関」とは大学・短期大学・高等専門学校専攻科、その他文部科学大臣が認めた教育施設をいいます。

「学外単位等認定制度」は、以下に示す ①～③ の3種類に分類することができます。

①
申請単位認定

学生が独自に計画し学外単位等を取得する（した）場合。

- 在学中に学外単位等を取得し、本学で認定を受けようとする場合は、定められた期間内に学生課に申し出て所定の手続きをしてください。入学前に学外単位等を取得し、本学で認定を受けようとする場合の申し出は、入学時の決められた期間に限ります。
- 建築学部では、各種の英語検定試験の得点を以下のとおり単位として認定し、また、放送大学で開講されている全科目を認定単位の対象として認めていますが、これらについても所定の手続きが必要となります。

各種英語検定試験の単位認定について

- 得点結果を証明する書類を定められた期間内に学生課に提出することにより、得点に応じて所定の科目名で単位が認定されます。また、認定単位は卒業要件に算入されます。

■ 「学外英語検定」(2単位)

TOEIC	730点以上	※プレイスメントテストならびに「Reading & Writing I」「TOEIC I A」「TOEIC I B」「TOEIC II」の履修学期末にTOEIC-IPを受験した際の得点は、学外英語検定の対象となりません。 ※上記以外の本学内で実施される「TOEIC-IP」テストの得点については「学外英語検定」の対象とします。 ※TOEIC、TOEFLの得点結果の有効期間は、検定試験の受験日から2年以内とします。
TOEFL (PBT)	550点以上	
TOEFL (CBT)	213点以上	
TOEFL (iBT)	79点以上	
英 検	1 級	

<p style="text-align: center;">2 協定単位認定</p>	<p style="text-align: center;">本学部と学外教育機関との間に単位認定に関する協定が結ばれ、あらかじめ特定の単位が本学部の単位として認められている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「協定単位認定」に関する協定を結んでいる学外教育機関としては次に説明する「東京理工系4大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく協定大学があります。 <p style="text-align: center;">「東京理工系4大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく特別聴講生制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>芝浦工業大学と工学院大学・東京電機大学・東京都市大学の4大学は上記協定に基づき各大学間の単位互換制度を設けています。それぞれの大学が定める科目を他の3大学の学生に対しても開放しており、この協定に基づき他大学の授業を聴講する学生を特別聴講生（芝浦工業大学が受け入れる他大学生の呼称。大学により呼び方は若干異なります）</u>とします。 上記各大学の科目履修申し込み期間は年2回（前期：4月上旬、後期：9月中旬）あり、学内掲示板にて通知しますので、希望者は定められた期間内に学生課で申請を行ってください。各大学の時間割表・シラバス等は学生課や各大学Webページでも閲覧できます。 学生の申し込みに基づき、学生課より各大学に履修申請を行います。各大学にて審査が行われ、その結果が1週間～2週間程度で本学に通知されます。ただし、正式に履修を許可されるまでの間についても履修を希望する各大学の授業には必ず出席し、不明な点などがある場合は各大学の教務課等に相談してください。 聴講先での入学検定料・入学金・聴講料は免除されます。ただし、実験・実習等で特別にかかる費用は各大学の定めにより実費徴収されることがあります。特別聴講生の成績は各大学より学生課を通じて通知されます。なお、各大学で特別聴講生として取得した単位が卒業要件に算入されるかどうかは、<u>建築学部が決定します。</u>
<p style="text-align: center;">3 協定留学単位認定</p>	<p style="text-align: center;">本学と留学の協定をしている教育機関等へ留学した場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「協定留学単位認定」に関する協定を結んでいる教育機関は、カリフォルニア州立大学アーバイン校(アメリカ) 等です。 <p>なお、本プログラムで認定した単位は卒業要件に参入されます。</p>

7 試験およびレポートなど

各科目の成績評価は、小テスト、中間試験、期末試験、レポート、発表などの方法を用いて判定されます。

- 各科目の成績評価の詳細はシラバスに記載されています。

1 試験に関する注意事項

① 試験時間割の発表	<ul style="list-style-type: none"> •原則として授業担当教員より発表します。授業科目によっては、通常の授業時とは異なる教室や曜日・時限に実施する場合があります。
② 座席の指定	<ul style="list-style-type: none"> •中間試験および期末試験の際に、各自の座席が座席表指定されている科目は、これに従って着席してください。座席の指定がない場合は、試験監督の指示に従ってください。
③ 学生証の提示	<ul style="list-style-type: none"> •試験を受ける場合は必ず学生証を持参し、試験教室では学生証を机上通路側の見やすい場所に置いてください。 •学生証を忘れた場合は、学生課で『仮身分証明書』の交付を受けてください。 •『仮身分証明書』は当日の当該試験科目に限り有効ですので、終了後は速やかに学生課へ返却してください。
④ 試験教室への入室について	<ul style="list-style-type: none"> •試験所要時間の2分の1を経過すると、試験教室への入室は認められません。
⑤ 持ち込み可能な物品について	<ul style="list-style-type: none"> •試験中に机の上に置いて良いものは、原則として、シャープペンシル、鉛筆、ボールペン、消しゴム、時計のみとします。 •ノート、プリント等の参照が許可されている場合は、綴られ、かつ自己の署名のあるものに限りです。 •計算機などは、授業ごとに許可されている場合に限り使用できます。 •試験に不必要なもの、指定されていないものはかばんの中にしまい、閉めて、見えないようにしてください。これらが守られないときには、『不正行為』とみなされる場合があります。
⑥ 試験監督者の指示	<ul style="list-style-type: none"> •試験教室では、試験監督者の指示に従って受験してください。 •また、試験監督者の許可があった場合を除き、学生相互間の筆記用具その他の貸借は一切禁止します。 •試験監督者の指示に従わないときは『不正行為』とみなされることがあります。
⑦ 携帯電話・スマートフォン等について	<ul style="list-style-type: none"> •試験教室内では、携帯電話・スマートフォン等の電子通信機器の電源を必ずOFFにし、かばんの中にしまってください。 •また、携帯電話・スマートフォン等を計算機・辞書・時計として使用することは禁止します。

2 追試験

- 学生本人の傷病、その他止むを得ない事情（正当な理由）で期末試験を受験できなかった場合は、**試験日を含めて4日以内（学生課窓口休業日を除く）**に学生課に申し出てください。申し出は電話でも構いません。
- 追試験を申請する時は、診断書などの証明書を添えて『追試験申請書』を学生課に提出してください。
- 授業担当教員がこの申請を認めた場合に限り、原則として試験期間終了後、1ヶ月以内に追試験を実施します。

3 不正行為

- 各科目の成績評価において不正行為を行った者には、**その期に履修登録した全ての科目の単位認定を行わない、学内に不正行為の公表を行う**などの処分を科します。

<p style="text-align: center;">試 験 （小テスト） （中間試験） （期末試験）</p>	<p>他人の答案を盗み見る行為はもちろんのこと、次に挙げる行為も全て不正行為とみなされますので、絶対に行わないようにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none">① 不正行為を行う目的で作成した資料を試験場に持ち込み見た場合、および見ようとした場合。（使用しなくても持ち込むだけで不正行為になりえます。）② 参照を許可されていないノート・教科書・参考書・電子通信機器等を見た場合。③ 机上、壁面あるいは電子通信機器等に試験に利益となる事項を記載し、かつこれを使用した場合。および他人が作成した上記の記録等を自己の答案作成の用に供した場合。④ ①～③の資料等を交換又は他人からの貸与等を受け、答案を作成した場合。⑤ 答案の交換（複数で答案を作成した場合を含む）あるいはすり替え、盗用を行った場合。⑥ 他人の答案又は他人の①～③の資料等を盗み見て、答案を作成した場合。⑦ 自己の代わりに他人が答案を作成した場合。⑧ 他人の答案を作成した場合。⑨ 解答用紙を持ち帰ろうとした、又は持ち帰った場合。⑩ その他、試験の目的に反する行為をした場合。
<p>論文、レポート、作品等の提出物</p>	<ol style="list-style-type: none">① 他人によって作成された論文、レポート、作品等を提出した場合。② 文献、インターネット上の情報を無断で盗用したり、引用元を明らかにせずに文章の多くを無断使用した場合。③ その他、提出物作成の目的に反する行為を行った場合。

8 成績

- 成績は、試験の結果や勉学の成果を成績評定基準により評価し、学生個人に通知するものです。
- 成績は『学籍簿』に記載され、大学に永久保存されます。各自でしっかり確認してください。
- 成績評価と認定単位数を記載した『成績通知書』をS*gsot（ガソット）に掲載します。
- なお、就職活動や大学院受験などの際には、必要に応じて『成績証明書』を発行します。

1 成績評定基準と成績通知書等への表記

- 『成績通知書』には以下のように表示します。

成績 評定	可否等	成績評価点 (Grade Point)	成績評定基準等
S	合格	4	評定点：90点～100点
A			評定点：80点～89点
B		3	評定点：70点～79点
C		2	評定点：60点～69点
D	不合格	1	評定点：50点～59点
F		0	評定点：0点～49点
G	履修中		
#	成績未報告	当該科目の成績は、(3) 成績の確認期間の説明を参照してください。	
N	認定	他大学等教育機関等で取得し、入学時もしくは在学中に認定された科目等 ※GPAに算入されません。	

- 『成績証明書』の成績評定においては「S」、「A」、「B」、「C」、「N」が記載されます。

2 成績通知書

- 各期成績は、S*gsot上の『成績通知書』により通知します（前期は8月下旬頃、後期は2月中旬頃）。

3 成績の確認期間

- 成績に関する質問は、確認期間に学生課で受付けます（確認期間は掲示等で発表します）。
- 成績の問い合わせを行う場合は『成績通知書』を印刷の上、学生課まで申し出てください。確認期間中に申し出がない場合は確認済とみなします。確認期間以外では成績に関する質問は受付けません（成績未報告科目を除く）。

4 GPA

- 本学では、成績評価にGPA（Grade Point Average）を導入しています。GPAとは学修の質を計るための成績評価方法で、各科目の成績に基づく成績評価点（Grade Point、GP）の、履修登録単位あたりの平均値により学修の達成状態を表すものです。成績評価点と評定点、成績通知書の表示記号との対応は前ページ表を参照してください。成績通知書には、学期ごとのGPAと全在学期間で算出したGPA（累積GPA）を、履修単位数と併せて記載します。不合格の科目については再履修が可能です。再履修し、前回履修までを上回る成績を修めたときには、成績評価点が更新されます。既に合格した科目については、再履修による成績評価点の更新はできません。
- GPAは、卒業要件、成績優秀者顕彰、学業不振者の抽出等に使用されます。自らが履修に対して責任を持ち、履修した科目を着実に学修することで、よりよい成績を修めることが肝要です。自らの学修への取り組みや達成度を省みるための指標として活用してください。
- また、卒業要件においてGPAの下限が定められていますので、不合格科目は再履修して合格点を取り、確実な学びに結びつけてください。

■ GPA算出方法

$$\text{GPA} = \frac{4 \times (\text{S} \cdot \text{A取得単位数}) + 3 \times (\text{B取得単位数}) + 2 \times (\text{C取得単位数}) + 1 \times (\text{D取得単位数})}{\text{履修登録単位数}}$$

※卒業要件参入科目のみ対象、ただしN評価（単位認定）は対象外

II 授業科目

1 全学共通科目群

全学共通科目は、全学部の学生が受講できる学部を超えた共通科目です。

芝浦工業大学のカリキュラムは、専門教育と共通教育からなり、各学部においてそれぞれの学修・教育目標にもとづいた特色ある教育が行われています。そして共通教育は、専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養、そして総合的な判断力と優れた人間性の醸成において重要な役割を担っています。

ところで、学部ごとに学修・教育目標があるように、以下のように、芝浦工業大学の「建学の精神」にもとづいた全学的な学修・教育目標があります。

すべての大学には創立者による「建学の精神」があります。この「建学の精神」にもとづいて大学の教育が行われるのです。

芝浦工業大学の「建学の精神」は、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」です。この「建学の精神」のもと、本学は、創立以来、実践的な工学教育を行ってきました。

しかし今世紀に入り、世界経済のグローバル化が急激に進展し、私たちのまわりの技術環境も大きく変化しました。本学では、この技術環境のグローバル化に対応して、「建学の精神」をさらに拡大し、「世界に学び、世界に貢献する理工学人材の育成」を新たな目標として掲げています。

本学の学修・教育目標は以下の3つからなります。

① 世界と社会の多様性を認識し、高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。

世界のグローバル化した環境のなかで、人種、宗教、性別、あるいは個々の人間による多様性（ダイバーシティー）を認識し、人間は成長した環境や経験によって自分とは異なった見方・考え方をすることを知り、そこから多くのことを学ぶことが求められています。

② 問題を特定し、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、社会的制約条件を踏まえて、基礎科学と専門知識を運用し、問題解決できる。

現代技術の進展は著しく、絶えざる技術革新が要請されています。技術者として社会に貢献するには、既成の技術を受動的に学ぶのでは不十分であり、自ら問題を設定し、自ら学んだ知識と情報を用いて主体的に解決していく能力が欠かせません。そのための問題整理と論理的思考能力も要求されます。

③ 関係する人々とのコミュニケーションを図り、チームで仕事ができる。

組織のなかで技術者として働くには、まわりの人々との基本的なコミュニケーション能力とともに、チームで仕事をする上での社会的スキルの修得も望まれます。

このように、「建学の精神」と全学的な学修・教育目標、そして近年のグローバル化した技術環境の変化を踏まえて、学部を超えた共通科目として全学共通科目を設定します。

① 本学の全学的な学修・教育目標（「建学の精神」、「社会に貢献する技術者にふさわしい能力」など）を達成するために履修が望まれる共通科目。

② 世界の技術環境のグローバル化に対応できる理工学人材に求められる、全学生が学べる共通科目。

全学共通科目は、「芝浦工業大学通論」、「Japanese Language」、「ダイバーシティ入門」など少数の科目から始め、今後、少しずつ充実させていく予定です。技術経営、キャリア形成、メンタルヘルスなどに関する科目を想定しています。

表 全学共通科目群

単位区分 自由科目

全学共通科目群	科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		コマ数	授業形態	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
	04184700	芝浦工業大学通論	2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	講義	
	10017001	ダイバーシティ入門	2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	講義	
	04185502	Japanese Language I	2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	講義	
	04185503	Japanese Language II	2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	講義	
	04185504	Japanese Language III	2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	講義	

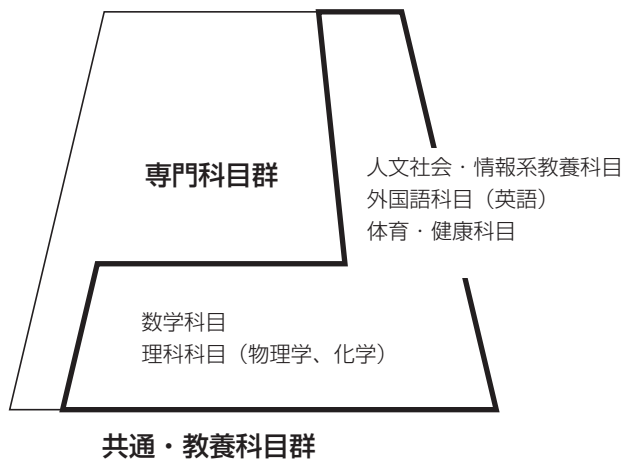
2 共通・教養科目群

共通・教養科目群の概要

- 共通・教養科目群は、数学科目、物理学科目、化学科目（以上数理基礎科目）、外国語科目、人文社会・情報系教養科目、体育・健康科目で構成されています。
- これらの科目を通して、4年間の建築・都市分野の学修に必要な基礎力を鍛えるとともに、分野を超えた幅広い視野や知識、柔軟な思考力・応用力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とします。

共通・教養科目群の基本方針

- 共通・教養科目群のそれぞれの科目は、建築学部の教育理念を受け、「自然科学や人文社会科学に関する基礎知識・能力と世界に適應できる能力を身につけた専門家の育成」を目標に、次の3項目を基本指針に定め、設計してあります。
 - I. 建築・都市分野の専門教育の修得に必要な基礎学力をつける
 - II. 高い倫理観と幅広い視野・知識の修得、それらを統合・駆使する柔軟な思考力・応用力を養う
 - III. 世界で活躍するためのコミュニケーション能力と多様性への理解を身につける
- 学生諸君が学ぶ、専門科目と共通・教養科目の関係を簡単に示したものが下図です。社会が求める学力・能力を身につけるためには、どの科目も必要であり、大切なものです。
- 自分の夢や進路を考えながら適切な履修計画を立ててください。



共通・教養科目群におけるそれぞれの科目の概要

数 学 (数理基礎科目)	科学技術の発展に携わる技術者として不可欠な確かな計算力、物事を論理的に考える力、物事を系統立てて考える力を備えた人材育成を教育研究の目的としています。確かな基礎学力の上に、これらの力が段階的につくように、科目の構成を行い開講しています。
物 理 学 (数理基礎科目)	建築学部の専門教育が前提とする物理学に関する基礎学力を身につけること、また社会において科学技術の発展に携わる技術者として不可欠と思われる自然科学の基本的な原理、方法論、常識を備えた人材を育成することを教育研究の目的としています。
化 学 (数理基礎科目)	いかなるものづくりにおいても欠かせない、素材を作る技術の基礎となり、また、人間の活動と地球環境との関わりについて考える基礎となる化学の教育研究を目的としています。基礎的化科目の教育を通じて、化学の素養を持ちながら、様々な専門分野で活躍する技術者の育成をめざしています。
英 語 (外国語科目)	建築の世界でグローバルに活躍するために必要な英語コミュニケーション能力を備えた人材育成をめざします。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、実務につながる応用力をつけるために、段階的な科目を開講しています。
人 文 社 会・ 情報系教養科目	建築・都市と人間や社会との関わりについての幅広い知識や視野、考え方、倫理観を身につけるとともに、現代の建築に不可欠な情報技術についての知識・技能の修得を目的とする科目です。人間の心理や行動、多様な文化や思想、専門家としての倫理観、法律や経済システム、今日の世界が直面する様々な問題に関する授業を開講しています。また、コンピュータやソフトウェア、ネットワーク、プログラミングに関する授業を開講しています。
体 育・健康科目	体力の維持・向上は勿論のこと、生活習慣の見直しと確立、スポーツマンシップの実践を目的とした科目です。運動・栄養・休養のバランスを整え、心と体の健康を管理できる能力を養成します。また、モラルの体得をねらいとした本学独自のスポーツ教育の実践により、社会の一員として誇りや自信の持てる人材を育成することを目的としています。

大宮キャンパスでの履修について

建築学部では1・2年次の金曜日を「大宮DAY」として設定しており、大宮キャンパスで開講される一部の共通・教養科目を受講することができます。大宮キャンパスは建築学部以外の全ての学部の1・2年次生が通学するキャンパスであり、他学部の学生と交流することができます。また、正課外活動も活発に行われており、クラブやサークルに所属して様々な活動を行うことができます。ぜひ積極的に活用してください。受講できる科目と開講教室については時間割を確認してください。

学習サポート室について

講義を受けて理解できないときなど、日頃の学修や試験に向けた学修を支援するため、「学習サポート室」が豊洲キャンパスの教室棟2階に設置されています。学習サポート室では、数学、物理、英語について学習サポート室担当教員が個別指導を行い、皆さんの学修の手助けをします。講義でわからないことがあるときや学習方法についての相談があるときには、ぜひ有効に利用してください。なお、金曜日は「大宮DAY」のため、大宮キャンパス学生会館2階の工学部学習サポート室を利用することができます。

1 数学科目

- 数学は1年を4つの学期に区分するクォーター制を導入しています。2017年度入学生が受講できる数理基礎科目の数学は次のとおりです。
「微分積分第1」、「微分積分第2」、「微分積分第3」、「微分積分第4」、「線形代数第1」、「線形代数第2」、「線形代数第3」、「線形代数第4」、「確率と統計第1」、「確率と統計第2」、「確率と統計第3」、「確率と統計第4」、「微分方程式第1」、「微分方程式第2」、「関数論第1」、「関数論第2」、「ベクトル解析第1」、「ベクトル解析第2」、「ラプラス変換第1」、「ラプラス変換第2」、「フーリエ解析第1」、「フーリエ解析第2」
- 入学当初はまず、「微分積分第1」と「線形代数第1」を受講し、その後は順に、「微分積分第2」、「微分積分第3」、「微分積分第4」や、「線形代数第2」、「線形代数第3」、「線形代数第4」を受講するとよいでしょう。これらは、この先に学ぶ数学の基礎となる科目です。これらの科目を修得してからでないと、他の数学科目を正確に理解することは難しいでしょう。
- 上記、数理基礎科目のうち、「確率と統計第1」以降の科目は、シラバスを参照して履修するか否かを判断してください。自然科学系の科目で扱う内容を建築学で使いこなせるようになるためには、しっかりした基礎固めと正確な理解が必要です。一部の科目を除いて、どの数学科目も前期と後期に開講されていますので、学ぶべき順序に従って、適切に履修してください。大学では何をどのように履修すべきか、一人ひとりで異なります。数学の履修について不安や疑問があれば、所属しているコースの教員や担任、または数学担当の教員に相談してください。

2 物理学

- 建築学の基礎としての物理学を学修するための科目が数理基礎科目に配置されています。数理基礎科目では、「物理学入門」、「基礎力学」、「基礎電磁気学」、「基礎熱統計力学」が開講されています。
- また、講義の学修目標を十分に達成し理解を深めるために、独立した演習科目である「基礎力学演習」、「基礎電磁気学演習」、「基礎熱統計力学演習」がそれぞれの講義担当者によって開講されていますので講義科目とその演習を併せて履修することが効果的です。
- 「物理学入門」では、力学と電磁気学の基礎的な内容について学びます。力学分野では運動方程式、電磁気学分野では静電場と直流回路を扱います。
- 「基礎力学」と「基礎力学演習」は質点の力学から始まり、剛体の力学、振動で構成されています。
- 「基礎電磁気学」および「基礎電磁気学演習」ではクーロンの法則からマクスウェルの電磁方程式までの一般的な電磁気学を学びます。「基礎熱統計力学」および「基礎熱統計力学演習」は熱機関、エントロピーや自由エネルギーなどの熱力学分野とボルツマン統計の統計力学分野を学びます。

3 化学科目

- 建築物や工業製品を実際に形のあるものにするためには、素材が必要です。その素材を作り出すのが「化学」です。また、深刻な環境問題を抱えている現代社会においては、地球環境に負荷がかからないよう、日常生活や経済活動における自然環境との関わり方を考え直す必要に迫られています。そこに力を発揮するのも「化学」です。したがって、「化学」は「建築学」を学ぶ学生にとっても重要な基礎の一つであり、化学を学ぶことによって、将来社会で活躍するために役立つ多くのことを学ぶことができます。
- 建築学部における化学関連科目には、「基礎環境化学」があります。「基礎環境化学」では、環境問題を切り口としながら、化学の基礎を固め、建築学部の卒業生として社会に出て行く際に修得していることが望ましい、教養としての化学を身につけます。

4 英語科目

- 英語科目は、全て2単位です。
- 1年次前期はListening & Speaking I、後期はReading & Writing Iをそれぞれ履修することを強く推奨します。なお、後期のReading & Writing Iのクラスも入学時に時間割を決定します。
- 1年次後期には、Reading & Writing Iに加え、会話を中心とするEnglish Communication Iも選択科目として開講されますので、読み書きだけでなく話す・聞く力も同時に伸ばすことができます。卒業に必要な英語（外国語科目）の単位数は8単位です。自分が必要とする単位数を考え、計画的に英語科目を履修してください。なお、選択科目を履修する際には事前に履修登録をします。クラス定員数より受講希望者数が多い場合は抽選となります。
- 以下に開講科目と簡単な内容説明があります。詳細はウェブシラバスを参照してください。上達科目ⅡはTOEIC 500点前後の英語力があることが望ましいです。履修の順序は特に決まっていませんが、4技能（reading, writing, listening, speaking）を練習する科目をバランスよくとることが望ましいです。
- 科目名にA・Bがある場合は、Aは前期、Bは後期開講を示しています。履修の順序は問いません。A・Bのどちらか1つを履修してもかまいません。また、特定のスキルを強化したい人はA・B両方を履修して差し支えありません。
(注：TOEIC IPとはTOEICの団体特別受験制度のことです。)

1 英語上達科目 I

Reading / Writing科目群、Listening / Speaking 科目群、TOEIC科目があります。

① Reading / Writing 科目群

Reading & Writing I	比較的平易な教材を使い、Reading techniqueを身につけて読みの基礎力を高めます。また、基本的なパラグラフの構成も同時に学びますので、書く力も伸ばすことを目指すクラスです。
Reading I A (前期) I B (後期)	工学および科学に関連した内容についての比較的難易度の高い長文を正確にかつ困難なく読み、内容を理解する力をつけます。
Writing I A (前期) I B (後期)	英文パラグラフ構築の仕方や短いエッセーの取り組み方を学びます。英語の表現形式に慣れ、自分の考えを簡潔で自然な英語でパラグラフにまとめる練習を行います。

② Listening / Speaking 科目

Listening & Speaking I	様々な場面での会話練習を通して、聴く・話す基礎力を高めるクラスです。副教材としてTOEICのリスニング教材も使い、語彙力を高めて聞き取る力を伸ばします。
English Communication I	世界における様々な問題を題材に、様々な聴き方の練習を通じリスニング力をつけると同時に、聞いた内容について話すことを通じて、情報や考えを英語で伝える力と自信をつけます。
Presentation I	効果的な英語プレゼンテーションを行うための基礎を学びます。自分の考えを明確かつ分かりやすく伝えるためのスピーチの組み立て方や様々なプレゼンテーション・テクニックを学びます。
Presentation II	学問や研究の場で求められるプレゼンテーションのテクニックを学び、パワーポイントなどのソフトを用いたグループ発表や個人発表ができるように練習を積み重ねます。

③ TOEIC 科目

TOEIC I A (前期) I B (後期)	TOEICテストの得点を伸ばすことを目的とします。Listening Section・Reading Sectionの問題を練習し、また頻出単語や文法を学修すると同時にテストを受ける際のコツも学びます。 授業点と学期末に行われるTOEIC IPの点数の合計により成績が出ます。
TOEIC II	TOEICで比較的高得点が取得できる英語力のある学生向けの授業です。TOEIC I 同様、Listening Section・Reading Sectionの問題を練習し、また頻出単語や文法も学修します。 授業点と学期末に行われるTOEIC IPの点数の合計により成績が出ます。

② 継続履修の勧め

語学は継続して学修することにより効果が期待できます。就職活動や大学院受験に際して「もっと英語をやっておけばよかった」という声をよく聞きます。また、卒業後の業務や研究の場で英語の必要性をあらためて感じる人が多いのも事実です。1・2年次だけでなく、3・4年次にも英語科目を継続して履修することを勧めます。

③ 学習サポート室利用について

英語の授業でわからないことや、英語学修一般・建築留学などについての相談がある場合は、積極的にサポート室を利用してください。また、わからないことや不安なことがあれば、所属する学科の先生、担任の先生、または英語専任教員にいつでも相談してください。

5 人文社会・情報系教養科目

ここではQ&A形式で人文社会・情報系教養科目について説明します。

Q：人文社会・情報系教養科目って何ですか？

A：ひとことで言えば、“人間や社会、情報に関して広い視野で学ぶ”科目群です。

入学後は、専門科目群とは別に共通・教養科目群と呼ばれる科目も履修しなければなりません。「人文社会・情報系教養科目」は、「数理基礎科目」、「外国語科目」、「体育・健康科目」と同じ共通・教養科目群に位置づけられています。

Q：なぜ、建築学部には人文社会・情報系科目があるのですか？

A：大きく分けて2つの理由があります。

1つは、大学を卒業し、社会人として活動する際に必要な知識・教養を身につけるためです。卒業し、社会人として活動する際、求められる能力は「専門技術」だけではありません。他者と協力して“働く”ためには、自分も含めた人間をより良く理解することが必要ですし、経営・管理という立場になれば、経済や法律についての一定の知識が必要となります。また、国際化・情報化が進んでいるため、異なる文化・慣習に身を置いたり、情報に関する知識・技術が必要になります。人文社会・情報系教養科目は、将来そんな状況になったとき「自分はどうすれば良いのか」を考える“糸口”や“能力”を身につけてもらうためにあるのです。

もう1つは、建築分野と深く関連している人間・社会・情報を学ぶためです。建築分野は、人々の生活や社会、環境に大きな影響を及ぼしており、そのために技術者には高い職業倫理や幅広い知識、豊かなコミュニケーション能力、情報処理能力が求められています。また、建築分野における技術やものづくりは人々や環境、社会の要請に応えるものでなければならず、そのために技術者は人間の心理や行動、人間が創り出した多様な文化や思想、政治制度や経済システム、さらには今日の世界が直面する経済や社会、環境などの様々な問題について十分に学ぶ必要があります。建築学部において人文社会・情報系教養科目が開講されるのは、そうした建築と人間・社会との関わりを学ぶためでもあるのです。

Q：いつ、どのように学ぶのですか？

A：1年から4年まで全ての学年で履修できます。

様々な科目がありますが、1～2年生を対象に人文社会科学の基礎を学ぶ基礎的教養科目と、3～4年生を対象に卒業研究や就職活動をも念頭に置いて自己の専門分野に関連する人文社会系科目を学ぶ展開教養科目、コミュニケーション能力やプレゼンテーション、文章の書き方、コンピュータスキルなど社会人として（大学生として）身につけておくべきスキル（リテラシ）を身につける基礎スキル科目があります。

したがって、「早く片づけてしまおう」などとは考えず、自分自身の幅を広げる機会と思って積極的に履修してください。

Q：実際的な効果は、何かあるのですか？

A：第一に、就職活動に役立ちます。第二に、卒業後の人生にとって重要な財産となります。

就職活動の場合、どのような業種や企業を目指すのかというときに、より幅広く正確な判断ができるようになります。また、採用試験では多くの企業が「一般常識」をテストしますが、ハウ・ツー本で対応できるようなレベルではありません。また、面接における“やりとり”も同様です。そこで必要な“力”を「人文社会・情報系教養科目」でつけてください。

卒業後、全員が「建築の現場」で専門職として働けるとは限りません。企業の事情、本人の判断によっては営業職、事務職として働かなくてはならない場合もあります。また、管理的・経営的な仕事に就くこともあります。そんなときに「自分はどうすれば良いのか」を考え・実行し、解決する“能力”を身につけてもらうのが「人文社会・情報系教養科目」です。

このように、「人文社会・情報系教養科目」は決してコマ切れの知識を詰め込む科目などではなく、学生諸君の“生きる能力”を高めるための科目群なのです。

Q：具体的にはどのような科目があるのですか？

A：次の科目が用意されています。すべて2単位です。

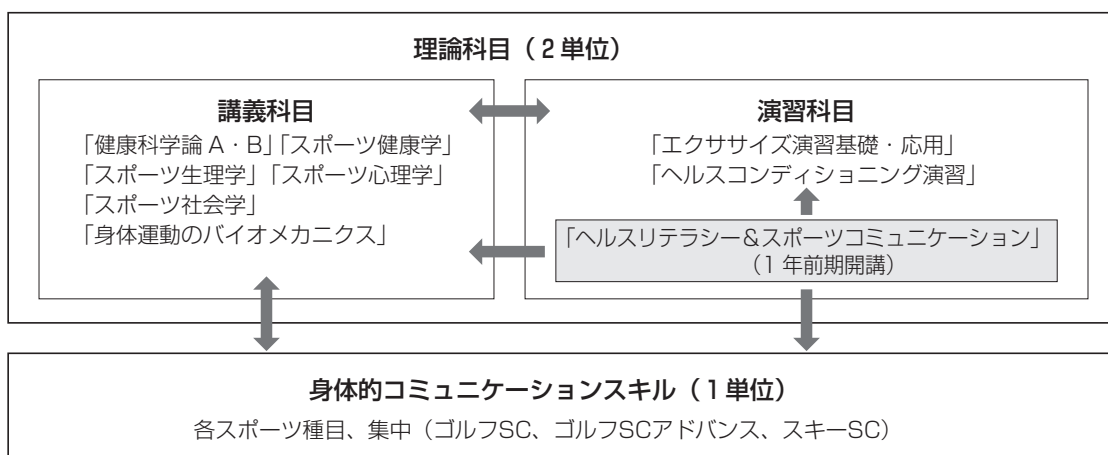
なお、「*2」のついている科目は2年生以上が、「*3」のついている科目は3年生以上が履修できる科目です。

	科目名
文化	比較文化論*3、アジア文化論、文化人類学
歴史学	現代史
芸術学	芸術学
哲学・倫理学	哲学*3、倫理学*3、生命倫理、技術者の倫理、科学技術倫理学*3
文学	文学論、文学表現法*3
政策学	現代日本の地方自治*2
法学	法学入門、日本国憲法、民法*2、知的財産法*3
経済学	経済学入門、マクロ経済学、ミクロ経済学、応用経済学*3
経営学	企業システム論*3
社会学	社会学、ジェンダー論*2、地域社会学*2
情報学	情報リテラシ
社会情報学	情報アクセシビリティ論*2、情報時代の地域・都市*2、映像メディア論*2
コミュニケーション	プレゼンテーション入門、レポートライティング
社会と産業技術	福祉と技術
環境	環境学入門、環境経済学*3、人間社会と環境問題、地域と環境*2、地域環境マネジメント*3、生産と消費の環境論*2

6 体育・健康科目

1 授業の構成

体育・健康科目は、2単位の理論科目（演習を含む）と1単位の身体的コミュニケーションスキル（実技）に大きく分かれます。体育・健康科目は1～4年生まで4年間にわたって自由に選択して履修することができますが、まず初めに1年前期に開講される、「ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション」の履修をすることを推奨します。

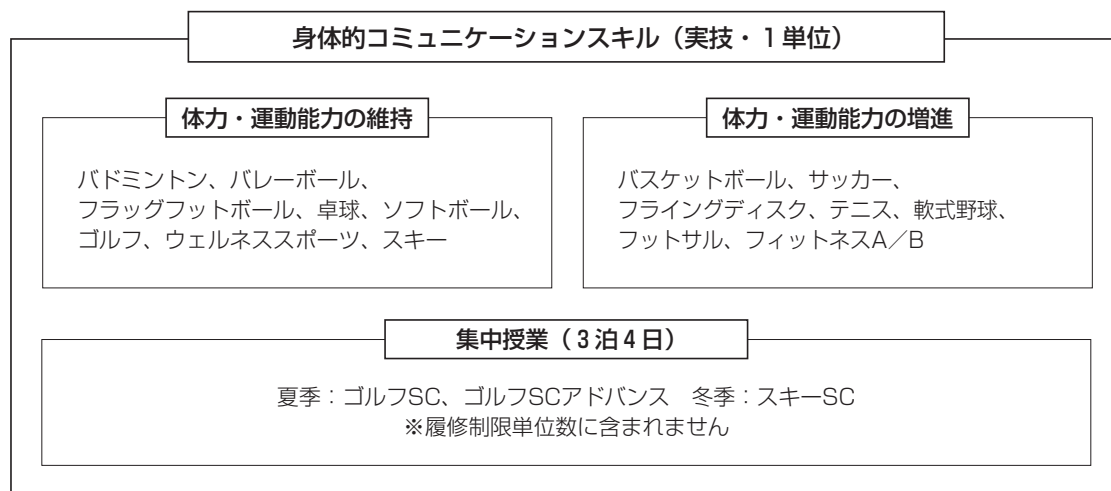


ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーションは、その上位に位置する**理論科目、演習科目、身体的コミュニケーションスキルのスポーツ種目**を円滑に学修できるようにするための基礎科目となっています。身体的コミュニケーションスキル（実技）は、スポーツの実践だけでなく、自己の健康管理を実践し、他者とのコミュニケーションを促進する内容となります。在学中における体力の維持・向上は勿論のこと、生活習慣の見直しと確立、そしてスポーツマンシップの実践をすることで心と体の健康管理を出来るように構成されています。

社会が求める「信頼される社会人」になるためには、心身の健康とコミュニケーション能力が必要です。コミュニケーションの基本的な姿勢として、相手を尊重する（respect）ことが重要であり、自分もrespectされるような人物にならなければなりません。つまりgood sports（信頼される人物）になる必要があります。本科目では、心と体の健康、社会性について解説し、得た知識を実践し、習慣化できることを最終目標としています。

2 身体的コミュニケーションスキルについて

身体的コミュニケーションスキルは、スポーツ種目によって身体負荷が若干変わることから、体力・運動能力の維持を目的とした種目と増進を目的とした種目に分けています。



ゴルフ (SC)	履修条件は、ゴルフ (T) を履修する必要があります。また、ゴルフ (SC) を発展させた授業としてゴルフ (SC) アドバンスも開講しています。
フラッグフットボール	アメリカで一番人気のスポーツであるアメリカンフットボールの「力」の部分 (タックルやブロック) を排除した、年齢・性別に関わらず、運動が苦手な人でも安全に楽しめる種目です。言わば、戦略が重要な鬼ごっこであり侵略型陣地取りスポーツです。
ウェルネススポーツ	多種多様な簡易種目を単元毎に実施致します (例：ウォーキング、筋力トレーニング、ニュースポーツ等)。
フィットネスA・B	自己の健康増進を目的とした授業です。Aは有酸素運動、Bは筋力トレーニング中心の授業展開となります。

3 専門科目群

1 専門科目群の概要

- 「共通・教養科目」が自然科学の一般法則の知識とその応用方法、基本的な外国語能力・コミュニケーション能力、人間の社会・文化に関する教養などを身につけるための科目群であるのに対し、「専門科目」は、建築学そのものの専門性を高めるために修得すべき科目です。建築学部の専門科目は、「設計・演習」、「設計・計画」、「都市・地域」、「建築史」、「構法・生産」、「環境・設備」、「材料」、「構造」、「実験」、「建築総合」に分類され、それぞれの分野の基礎から応用までを幅広くカバーしています。

1 設計・演習分野

「建築デザイン基礎1・2」、「建築スタジオ演習1～4」、「空間建築デザイン演習1～4」、「都市建築デザイン演習1～4」などにより、実践的な製図・設計演習を通じて建築デザインについて学びます。

2 設計・計画分野

「建築の形態と空間」、「建築設計計画論」、「建築計画1・2」、「建築設計論」、「都市建築論」、「ランドスケープ論」などにより、人間・建築物・自然環境の相互関係を念頭においた建築を計画する手法について学びます。

3 都市・地域分野

「都市地域計画」、「地域マネジメント」、「都市住宅論」、「都市デザイン論」、「都市開発マネジメント」、「都市防災計画」などにより、都市や地域のデザインとそこに生まれる社会的課題の解決方法について学びます。

4 建築史

「居住空間史」、「西洋建築史」、「日本建築史」、「建築文化史」、「近代建築史」などにより、歴史上の建築空間と人間の営みとの相互関係について学びます。

5 構法・生産分野

「建築ものづくり」、「建築構法」、「木造建築」、「建築生産」、「建築プロジェクトマネジメント」などにより、設計図を現実の建築として実現する方法論とプロセスを学び、BIMをはじめとする新しい時代の建築技術者に必須のスキルを身につけます。

6 環境・設備分野

「建築環境工学1・2」、「建築設備」、「空調システム計画」、「都市環境設備計画」、「建築音響計画」などにより、建物や都市の環境計画、設備システム、エネルギー効率などについて学びます。

7 材料分野

「構造材料」、「仕上げ材料」、「維持保全・改修」などにより、建築に用いられる材料の性質を理解し、目的に適した材料を選定し利用する方法などについて学びます。

8 構造分野

「力学の基礎」、「構造力学・演習」、「材料力学・演習」、「建築構造計画」、「建築構造解析・演習」、「鉄筋コンクリート造の設計1・2」などにより、力学の基礎知識から構造設計や施工方法などについて学びます。

9 実験

「建築環境実験」、「建築材料施工実験」、「建築構造実験」、「建築材料構造実験」などにより実験や実習を体験することで、講義で学んだ知識・技術を実践し、理解を深めて応用力を高めます。

10 建築総合分野

「国際プロジェクト1・2」、「建築英語」、「プロジェクトゼミ」などにより、建築分野に共通するスキルや、講義で身につけた知識・技術を実践する方法などについて学びます。

2 専門科目群の特徴

1 専門基礎課程と専門応用課程による教育

専門教育を段階的に実施するため、1年次～3年次前期を専門基礎課程、3年次後期～4年次後期を専門応用課程と位置づけています。専門基礎課程では、一級建築士受験資格取得を念頭に、建築学の基礎となる「建築デザイン基礎」、「構造力学」、「建築環境工学」など多様な建築分野をすべてのコースで共通して履修できるようカリキュラムを設定しています。これらの基礎的な科目をベースとして、専門応用課程ではより専門性の高い科目の履修が可能となるとともに、「プロジェクトゼミ」、「卒業研究」など卒業論文や卒業制作に向けた科目の履修が可能となります。

2 演習、実験・実習などを通じた体験的学修の重視

建築学部では演習科目や実験・実習科目を豊富に開講しており、講義で学んだ知識を実践し、理解をより深めることを重視しています。

3 学生の主体的な学びを促すカリキュラム

建築学部では、卒業するために必ず履修しなければならない必修科目を少なく設定し、選択科目の比率を高めています。これにより、学生の学びの方向性に合わせて柔軟に専門科目を選択することができ、専門性を高めることができます。

4 研究室選択の柔軟性

建築学部では、幅広い専門分野の32研究室を擁しています。「プロジェクトゼミ」、「卒業研究」は、3つのコースの所属に関係なく、これらの32の研究室から自由に選択することが可能です（ただし、各研究室の希望者数により、成績などによる選抜・調整を行う場合があります）。なお、3年次のプロジェクトゼミ、4年次の卒業研究は、各研究室に分かれてゼミ形式で行う科目ですので、通常の履修登録に加えて、研究室への配属が必要です。配属方法については、各年次のガイダンスで説明します。

3 コースによる教育について

- 建築学部では複数のコースに共通して開講している専門科目と、各コースの目指す人材育成の方針にしたがって特定のコースのみで開講している専門科目（コース科目）があります。
- 共通して開講している多くの専門科目では2つのクラスを設け、それぞれコースを割り当てることによって少人数教育を実現し、学修効果を高めています（例えば、必修科目の「建築デザイン基礎1」は2クラス開講することで1クラスあたりの受講者数を抑えています）。
- コース科目はそれぞれのコースの特徴にしたがって開講される専門科目です。原則として当該科目が開講されていないコースの学生は受講することができません（各コースの開講科目の詳細は科目配当表を参照、コース専門科目については「※コース」と記載あり）。どうしても受講したい他コースの科目がある場合は、所定の手続きにしたがって履修申請を行ってください。（6. 履修を参照。ただし、必ず履修できるとは限りません。）

4 APコースの特徴

- 設計演習では、コースの規模を生かした少人数制指導で設計技術を確実に身につけます。また「空間情報デザイン演習」では、3Dモデリングツールを利用した最先端の空間表現技術を学びます。
- 「建築スタジオ演習」、「プロジェクト研究」などに加え、海外の協定大学との建築実習を独自科目として開講します。設計技術に加えて、社会の諸問題を解決するための国際的な知見を身につけます。

APコース・カリキュラムの流れ 2017年度

専門共通科目
 コース科目
 学科必修科目
 コース必修科目
 コース選択必修科目

科目分野	1 年 次		2 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期
設 計	建築デザイン基礎1	建築デザイン基礎2	CAD・CG演習	
		建築スタジオ演習1	建築スタジオ演習2	建築スタジオ演習3
AP選択必修				
国内プロジェクト1,2,3,4-1年～3年前期までの夏休み又は春休み				
計 画	建築デザイン入門	建築の形態と空間	住生活論	色彩・素材論
				環境心理学
			プロジェクト研究1	プロジェクト研究2
			建築設計計画論	
都市・地域			都市地域計画	
				地域設計論
				地域マネジメント
建築史	居住空間史	デザイン史		建築史
				日本建築史
			西洋建築史	
構法・生産				BIM演習1
		建築ものづくり		木造建築
環境・設備		建築環境工学1	建築環境工学2	建築設備
材 料			構造材料	仕上げ材料
構 造	力学の基礎	構造力学・演習	材料力学・演習	建築構造解析・演習
			建築構造計画	
実 験				
建築総合				国内プロジェクト1,2,3,4
				海外建築研修

5 SAコースの特徴

- 設計演習では戸建て住宅にはじまり、小学校、集合住宅、図書館、美術館など、人間がつくり出す生活環境全般を課題として設定しています。人びとの生活スタイルや家族構成、敷地条件などを考えながら取り組みます。
- 「空間建築デザイン演習」、「建築設計計画論」、「都市住宅論」、「ランドスケープ論」など、人びとが体験するさまざまな空間や建築を主な対象とするSAコース独自の科目を豊富に開講します。

SAコース・カリキュラムの流れ 2017年度

専門共通科目
 コース科目
 学科必修科目
 コース必修科目
 コース選択必修科目

科目分野	1 年 次		2 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期
設 計	建築デザイン基礎1	建築デザイン基礎2	CAD・CG演習	
		空間建築デザイン演習1	空間建築デザイン演習2	空間建築デザイン演習3
計 画	建築デザイン入門	建築の形態と空間	住生活論	色彩・素材論
				環境心理学
			建築設計計画論	建築設計論
都市・地域			都市地域計画	地域設計論
建築史	居住空間史	デザイン史		建築史
構法・生産				BIM演習1
				建築構法
環境・設備		建築環境工学1	建築環境工学2	建築設備
材 料			構造材料	仕上げ材料
構 造	力学の基礎	構造力学・演習	材料力学・演習	建築構造解析・演習
			建築構造計画	
実 験				
建築総合				国際プロジェクトA,B
				海外建築研修

- 下町などをフィールドとしたまちづくりの提案、既存住宅ストックの再生、良好な音環境や空気環境計画、内部空間デザインと一体化された構造の設計など、総合的な視点を持って建築を考える「プロジェクトゼミ」につながります。

		3 年 次		4 年 次	
		前 期	後 期	前 期	後 期
		空間建築デザイン演習4	空間地域デザイン演習		
		建築法規			
		建築構法計画論			
		近代建築と技術	ランドスケープ論	建築家職能論	
		都市住宅論	GIS演習		
		日本建築史	建築文化史		
		BIM演習2	木造建築の設計		
		建築生産	建築施工・管理		
		空調システム計画	建築音響計画		
		都市環境設備計画	給排水システム計画		
			光環境計画		
			維持保全改修		
		建築振動解析	基礎構造		
		鉄筋コンクリート造の設計1	鉄筋コンクリート造の設計2		
		鋼構造の設計	マトリックス構造解析		
			建築防災		
		建築環境実験			
		建築材料施工実験			
		建築構造実験			
		SA選択必修			
		プロジェクトゼミ			
		卒業研究			
-1年～4年までの夏休み又は春休み					
		インターンシップ1,2-3年～4年までの夏休み又は春休み			
		建築英語			

6 UAコースの特徴

- 設計演習では名作住宅を題材とした図面と模型製作からはじまり、図書館、集合住宅、美術館、中高層のオフィスなど、段階的な対象規模に広がりのある課題を設定しています。
- 「都市建築デザイン演習」、「木造建築」、「地域マネジメント」、「海外建築研修」など、建築、都市、まちづくりを主な対象とするUAコース独自の科目を豊富に開講しています。

UAコース・カリキュラムの流れ 2017年度

専門共通科目
コース科目
学科必修科目
コース必修科目
コース選択必修科目

科目分野	1 年 次		2 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期
設 計	建築デザイン基礎1	建築デザイン基礎2	CAD・CG演習	
		都市建築デザイン演習1	都市建築デザイン演習2	都市建築デザイン演習3
計 画	建築デザイン入門	建築の形態と空間	住生活論	色彩・素材論
				環境心理学
			建築計画1	都市建築論
都市・地域			都市地域計画	
				地域マネジメント
建築史	居住空間史	デザイン史		
			西洋建築史	日本建築史
構法・生産				BIM演習1
		建築ものづくり		木造建築
環境・設備		建築環境工学1	建築環境工学2	建築設備
材 料			構造材料	仕上げ材料
構 造	力学の基礎	構造力学・演習	材料力学・演習	建築構造解析・演習
			建築構造計画	
実 験				
建築総合				国際プロジェクトA,B
				海外建築研修

- 過疎地域の空き家に対する移住計画の提案、古い建物の改修提案、CAD・BIMを利用した建設現場での生産性向上、省エネルギー性を高める改善策の提案など、実践的な学修を通して建築を考える「プロジェクトゼミ」につながります。

	3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期
			卒業研究	
	都市建築デザイン演習4			
	都市地域デザイン演習			
	イタリア建築実習			
	フランス建築実習			
	韓国建築実習			
	近代建築作家論	建築計画2		
		建築・都市法規		
		GIS演習		
	都市デザイン論	都市開発マネジメント		
		都市防災計画		
		近代建築史		
	BIM演習2			
	建築プロジェクトマネジメント	建築経済		
	建築構工法1	建築構工法2		
	空調システム計画	建築音響計画		
	都市環境設備計画	給排水システム計画		
		光環境計画		
		維持保全改修		
	建築振動解析	基礎構造		
	鉄筋コンクリート造の設計1	鉄筋コンクリート造の設計2		
	鋼構造の設計	マトリックス構造解析		
		建築防災		
	建築構造実験			
	建築材料構造実験			
	UA選択必修			
	プロジェクトゼミ			
	-1年～4年までの夏休み又は春休み			
	インターンシップ1,2-3年～4年までの夏休み又は春休み			
	建築英語			

表1 建築学部学修・教育到達目標

建築学部建築学科学修・教育到達目標	1 年 次		2 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期
人々の生活や社会の発展に寄与する建築文化を創造するための教養や思考力を身につけ、建築の技術や方法論を適切に使うことができる。	居住空間史	デザイン史	住生活論 西洋建築史	
建築が社会生活や自然環境に及ぼす影響や効果を理解し、専門家としての倫理を遵守・実践することができる。	建築デザイン入門	建築環境工学 1	建築環境工学 2	
自然科学や人文社会科学に関する知識を援用して、建築にかかわるさまざまな事象を論理的に説明することができる。	力学の基礎	構造力学・演習	材料力学・演習 建築構造計画	
	数理基礎科目			
建築設計や建築技術に関する体系的な専門知識を身につけ、それらに応用することができる。	建築デザイン入門 建築デザイン基礎 1 力学の基礎	都市建築デザイン演習 1 空間建築デザイン演習 1 建築デザイン基礎 2 建築スタジオ演習 1 建築の形態と空間 建築ものづくり 建築環境工学 1 構造力学・演習	空間建築デザイン演習 2 都市建築デザイン演習 2 建築スタジオ演習 2 建築計画 1 建築設計計画論 CAD・CG 演習 材料力学・演習 建築環境工学 2 構造材料 建築構造計画 都市地域計画	
豊富な教養と専門知識を統合、駆使して、種々の制約条件や解決すべき課題を整理・分析し、合理的な方法によって建築をデザインすることができる。		空間建築デザイン演習 1 都市建築デザイン演習 1 建築スタジオ演習 1	空間建築デザイン演習 2 都市建築デザイン演習 2 建築スタジオ演習 2	
	人文社会・情報系教養科目/数理基礎科目			
グローバルに活躍できるさまざまな能力を身につけ、自分の意見や提案、情報を相手に論理的に伝えることができると同時に、他者の考えを理解し尊重することができる。			国際プロジェクト A・B	
			外国語科目	
課題の発見・解決のために自ら継続して学修・探求することができる。			プロジェクト研究 1 国際プロジェクト A・B	
与えられた制約の下で問題解決に向けた計画を立案し、それを実践することができる。			プロジェクト研究 1 国内プロジェクト 1・2・3・4 国際プロジェクト A・B	
チームの中で自分と他者の役割を理解し、互いの意思疎通を図りながらチームの目標のために行動することができる。			プロジェクト研究 1 国内プロジェクト 1・2・3・4 国際プロジェクト A・B	
			体育・健康科目	

2 年 次		3 年 次				4 年 次	
後 期		前 期		後 期		前 期	後 期
建築史	日本建築史	近代建築作家論	近代建築と技術	建築文化史	近代建築史	卒業研究 1・2	
		都市環境設備計画	建築法規	建築防災	建築・都市法規	建築家職能論	
				都市防災計画		卒業研究 1・2	
				維持保全・改修	空間保全再生計画		
建築構造解析・演習		建築振動解析	鉄筋コンクリート造の設計 1	基礎構造	鉄筋コンクリート造の設計 2	卒業研究 1・2	
		鋼構造の設計		マトリックス構造解析	プロジェクトゼミ		
空間デザイン演習 3	都市デザイン演習 3	空間デザイン演習 4	都市デザイン演習 4	ランドスケープ	空間地域デザイン演習	建築家職能論	
建築スタジオ演習 3	建築設計論	建築スタジオ演習 4	都市地域デザイン演習	空間保全再生計画	建築計画 2	卒業研究 1・2	
都市建築論	地域設計論	空間情報デザイン演習	近代建築と技術	維持保全・改修	建築・都市法規		
地域マネジメント	建築構法	近代建築作家論	建築構法計画論	都市開発マネジメント	都市防災計画		
木造建築	建築環境心理学	建築法規	都市住宅論	施工計画・管理	建築経済		
色彩・素材論	BIM 演習 1	都市デザイン論	建築生産	木造建築の設計	建築構工法 2		
建築設備	建築構造解析・演習	建築プロジェクトマネジメント	BIM 演習 2	GIS 演習	給排水システム計画		
仕上げ材料		建築構工法 1	空調システム計画	建築音響計画	基礎構造		
		都市環境設備計画	建築振動解析	光環境計画	マトリックス構造解析		
		鉄筋コンクリート造の設計 1	鋼構造の設計	鉄筋コンクリート造の設計 2	プロジェクトゼミ		
				建築防災			
空間デザイン演習 3	都市デザイン演習 3	空間デザイン演習 4	都市デザイン演習 4	空間地域デザイン演習	プロジェクトゼミ	卒業研究 1・2	
建築スタジオ演習 3		建築スタジオ演習 4	都市地域デザイン演習				
		空間情報デザイン演習					
海外建築研修		韓国建築実習 A・B	フランス建築実習 A・B	イタリア建築実習 A・B	ロシア建築実習 A・B	卒業研究 1・2	
				建築英語	プロジェクトゼミ		
		インターンシップ 1・2					
海外建築研修	プロジェクト研究 2	韓国建築実習 A・B	フランス建築実習 A・B	イタリア建築実習 A・B	ロシア建築実習 A・B	卒業研究 1・2	
		プロジェクト研究 3		プロジェクトゼミ			
		インターンシップ 1・2					
プロジェクト研究 2		プロジェクト研究 3	建築環境実験	プロジェクトゼミ		卒業研究 1・2	
		建築材料施工実験	建築材料構造実験				
		建築構造実験					
		インターンシップ 1・2					
海外建築研修	プロジェクト研究 2	韓国建築実習 A・B	フランス建築実習 A・B	イタリア建築実習 A・B	ロシア建築実習 A・B	卒業研究 1・2	
		プロジェクト研究 3	建築環境実験	プロジェクトゼミ			
		建築材料施工実験	建築材料構造実験				
		建築構造実験					
		インターンシップ 1・2					

4 建築学部科目配当表

表1 全学共通科目群 (2017年度入学生)

自由科目

科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		授業コマ数	授業形態	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
04184700	芝浦工業大学通論	2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	講義	
10017002	ダイバーシティ入門	2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	講義	
04185502	Japanese Language I	2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	講義	
04185503	Japanese Language II	2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	講義	
04185504	Japanese Language III	2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	講義	

表2 共通・教養科目群 (2017年度入学生)

△ 選択科目

	科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後		
数理基礎科目	S2010000	線形代数第1	1	Q1	△							1	講義	
	S2013000	線形代数第2	1	Q2	△							1	講義	
	S2016000	線形代数第3	1	Q3		△						1	講義	
	S2019000	線形代数第4	1	Q4		△						1	講義	
	S2022000	微分積分第1	2	Q1	△							2	講義	
	S2025000	微分積分第2	2	Q2	△							2	講義	
	S2028000	微分積分第3	2	Q3		△						2	講義	
	S2031000	微分積分第4	2	Q4		△						2	講義	
	S2034000	確率と統計第1	1	Q1			△					1	講義	
	S2037000	確率と統計第2	1	Q2			△					1	講義	
	S2040000	確率と統計第3	1	Q3				△				1	講義	
	S2043000	確率と統計第4	1	Q4				△				1	講義	
	S2046000	微分方程式第1	1	Q1			△					1	講義	
	S2049000	微分方程式第2	1	Q2			△					1	講義	
	S2052000	ベクトル解析第1	1	Q1			△					1	講義	
	S2055000	ベクトル解析第2	1	Q2			△					1	講義	
	S2058000	フーリエ解析第1	1	Q1			△					1	講義	
	S2061000	フーリエ解析第2	1	Q2			△					1	講義	
	S2064000	ラプラス変換第1	1	Q3				△				1	講義	
	S2067000	ラプラス変換第2	1	Q4				△				1	講義	
S2070000	関数論第1	1	Q3				△				1	講義		
S2073000	関数論第2	1	Q4				△				1	講義		
理科科目	S2076000	物理学入門	2		△							1	講義	
	S2079000	基礎力学	2			△						1	講義	
	S2082000	基礎力学演習	2			△						1	演習	
	S2085000	基礎環境化学	2		△	△						1	講義	
	S2088000	基礎電磁気学	2			△						1	講義	
	S2091000	基礎電磁気学演習	2			△						1	演習	
	S2094000	基礎熱統計力学	2				△					1	講義	
	S2097000	基礎熱統計力学演習	2				△					1	演習	
外国語科目	S2210000	Listening and Speaking I	2		△							1	講義	
	S2213000	Reading and Writing I	2			△						1	講義	
	S2216000	Reading I A	2				△					1	講義	
	S2219000	Reading I B	2					△				1	講義	
	S2222000	Writing I A	2				△					1	講義	
	S2225000	Writing I B	2					△				1	講義	
	S2228000	Presentation I	2				△					1	講義	
	S2231000	Presentation II	2					△				1	講義	
	S2234000	English Communication I	2					△				1	講義	
	S2237000	TOEIC I A	2					△				1	講義	
	S2240000	TOEIC I B	2						△			1	講義	
	S2243000	TOEIC II	2							△		1	講義	

	科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		授業コマ数	授業形態	備考	
					前	後	前	後	前	後	前	後				
人文社会・情報系教養科目	情報学	S2410000	情報リテラシ	2		△		△		△		△	1	講義		
	社会情報学	S2413000	情報アクセシビリティ論	2				△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2416000	映像メディア論	2				△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2419000	情報時代の地域・都市	2					△		△		△	1	講義	
		S2422000	哲学	2						△		△		1	講義	
	哲学	S2425000	倫理学	2							△		△	1	講義	
		S2428000	技術者の倫理	2		△		△		△		△		1	講義	
		S2431000	科学技術倫理学	2						△	△	△	△	1	講義	
		S2434000	生命倫理	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2437000	日本国憲法	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
	法学	S2440000	知的財産法	2						△	△	△	△	1	講義	
		S2443000	法学入門	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2446000	民法	2					△		△		△	1	講義	
		S2449000	現代日本の地方自治	2				△	△	△	△	△	△	1	講義	
	政策学	S2452000	社会学	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2455000	ジェンダー論	2				△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2458000	地域社会学	2				△	△	△	△	△	△	1	講義	
	環境学	S2461000	生産と消費の環境論	2				△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2464000	地域環境マネジメント	2							△		△	1	講義	
		S2467000	環境学入門	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2470000	環境経済学	2						△	△	△	△	1	講義	
		S2473000	人間社会と環境問題	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2476000	地域と環境	2				△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2479000	福祉と技術	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
	文学	S2482000	文学表現法	2						△	△	△	△	1	講義	
		S2485000	文学論	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
	歴史学	S2488000	現代史	2		△		△		△		△		1	講義	
	芸術学	S2491000	芸術学	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
	文化	S2494000	文化人類学	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2497000	比較文化論	2						△	△	△	△	1	講義	
		S2500000	アジア文化論	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
		S2503000	経済学入門	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
	経済学	S2506000	ミクロ経済学	2		△		△		△		△		1	講義	
		S2509000	マクロ経済学	2			△		△		△		△	1	講義	
		S2512000	応用経済学	2						△	△	△	△	1	講義	
		S2515000	企業システム論	2						△	△	△	△	1	講義	
	経営学	S2518000	プレゼンテーション入門	2		△		△		△		△		1	講義	
		S2521000	レポートライティング	2		△	△	△	△	△	△	△	△	1	講義	
	体育・健康科目	身体的コミュニケーション	S2610000	ウェルネス・スポーツT	1					△				1	実技	
			S2613000	ウェルネス・スポーツSC	1						△			1	実技	
S2616000			バスケットボールT	1		△							1	実技		
S2619000			バスケットボールSC	1			△						1	実技		

	科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		授業コマ数	授業形態	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
体育・健康科目	S2622000	軟式野球T	1		△								1	実技	
	S2625000	軟式野球SC	1			△							1	実技	
	S2628000	卓球T	1		△								1	実技	
	S2631000	卓球SC	1			△							1	実技	
	S2634000	サッカーSC	1			△							1	実技	
	S2637000	テニスT	1		△								1	実技	
	S2640000	テニスSC	1			△							1	実技	
	S2643000	フットサルT	1		△								1	実技	
	S2646000	フットサルSC	1			△							1	実技	
	S2649000	バドミントンT	1		△								1	実技	
	S2652000	バドミントンSC	1			△							1	実技	
	S2655000	バレーボールSC	1			△							1	実技	
	S2658000	フラッグフットボールSC	1			△							1	実技	
	S2661000	ソフトボールSC	1			△							1	実技	
	S2664000	スキーSC	1			△							1	実技	集中
	S2667000	ゴルフT	1		△	△							1	実技	
	S2670000	ゴルフSC	1		△	△							1	実技	集中
	S2673000	ゴルフSCアドバンス	1		△	△							1	実技	集中
	S2676000	フィットネスA	1						△				1	実技	
	S2679000	フィットネスB	1							△			1	実技	
理論科目	S2682000	身体運動のバイオメカニクス	2		△								1	講義	
	S2685000	スポーツ生理学	2			△							1	講義	
	S2688000	スポーツ健康学	2						△	△			1	講義	
	S2691000	ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	2		△								1	演習	※1年次限定
	S2694000	ヘルスコンディショニング演習	2		△								1	演習	
	S2697000	エクササイズ演習(基礎)	2						△				1	演習	
	S2700000	エクササイズ演習(応用)	2							△			1	演習	

※大宮キャンパスで履修

表3 専門科目群

① APコース (2017年度入学生)

◎ 必修科目 ○ コース必修
 1 選択必修科目 (1群) 2 選択必修科目 (2群) △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		授業コマ数	授業形態	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
S0010000	建築デザイン基礎1	2		◎								3	演習	
S0013000	建築デザイン入門	2		△								1	講義	
S0016000	居住空間史	2		△								1	講義	
S0019000	力学の基礎	2		△								1	講義	
S0022000	デザイン史	2			△							1	講義	
S0025000	建築デザイン基礎2	2			◎							3	演習	
S0034000	建築スタジオ演習1	2			△							2	演習	※コース
S0037000	建築の形態と空間	2			△							1	講義	
S0040000	建築ものづくり	2			△							1	講義	
S0043000	建築環境工学1	2			◎							1	講義	
S0046000	構造力学・演習	3			◎							2	講義	
S0210000	住生活論	2				△						1	講義	
S0219000	建築スタジオ演習2	2					○					3	演習	※コース
S0222001	CAD・CG演習	2										2	演習	
S0222002														
S0225000	建築設計計画論	2				△						1	講義	
S0228000	建築計画1	2				△						1	講義	
S0231000	都市地域計画	2				△						1	講義	
S0234000	西洋建築史	2				△						1	講義	
S0237000	建築環境工学2	2				△						1	講義	
S0240000	材料力学・演習	3				△						2	講義	
S0243000	建築構造計画	2				△						1	講義	
S0246000	構造材料	2				△						1	講義	
S0249000	色彩・素材論	2					△					1	講義	
S0252000	建築環境心理学	2					△					1	講義	
S0261000	建築スタジオ演習3	2						○				3	演習	※コース
S0264000	都市建築論	2					△					1	講義	
S0270000	地域マネジメント	2					△					1	講義	
S0273000	地域設計論	2					△					1	講義	
S0276000	建築史	2					△					1	講義	
S0282000	日本建築史	2					△	△				1	講義	
S0449000														
S0285000	木造建築	2					△					1	講義	
S0288000	BIM演習1	2					△					2	演習	
S0291000	建築設備	2					△					1	講義	
S0294000	建築構造解析・演習	3					△					2	講義	
S0297000	仕上げ材料	2					△					1	講義	
S0410000	空調システム計画	2						△				1	講義	
S0413000	都市環境設備計画	2						△				1	講義	
S0422000	建築スタジオ演習4	2						△				3	演習	※コース
S0425000	都市地域デザイン演習	2						△				3	演習	

1 APコース (2017年度入学生) (つづき)

◎ 必修科目 ○ コース必修
 1 選択必修科目 (1群) 2 選択必修科目 (2群) △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		授業コマ数	授業形態	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
S0428000	空間情報デザイン演習	2						△				2	演習	※コース
S0431000	近代建築と技術	2						△				1	講義	
S0434000	近代建築作家論	2						△				1	講義	
S0437000	建築構法計画論	2						△				1	講義	
S0440000	建築法規	2						△				1	講義	
S0443000	都市住宅論	2						△				1	講義	
S0446000	都市デザイン論	2						△				1	講義	
S0452000	建築生産	2						△				1	講義	
S0455000	建築プロジェクトマネジメント	2						△				1	講義	
S0458000	B I M 演習 2	2						△				2	演習	
S0461000	建築構工法 1	2						△				1	講義	
S0464001	建築振動解析	2						△				1	講義	
S0464002														
S0467001	鉄筋コンクリート造の設計 1	2						△				1	講義	
S0467002														
S0470000	鋼構造の設計	2						△				1	講義	
S0473000	建築環境実験	2						△				3	実験	
S0476000	建築材料施工実験	2						△				3	実験	
S0479000	建築構造実験	2						△				3	実験	
S0482000	建築材料構造実験	2						△				3	実験	
S0485000	プロジェクトゼミ	2							○			2	実習	
S0488000	建築英語	2						△				1	講義	
S0491000	G I S 演習	2						△				1	演習	
S0494000	建築音響計画	2						△				1	講義	
S0497000	給排水システム計画	2						△				1	講義	
S0500000	光環境計画	2						△				1	講義	
S0503000	基礎構造	2						△				1	講義	
S0506000	鉄筋コンクリート造の設計 2	2						△				1	講義	
S0509000	マトリックス構造解析	2						△				1	講義	
S0512000	建築防災	2						△				1	講義	
S0515000	維持保全・改修	2						△				1	講義	
S0518000	空間地域デザイン演習	2						△				3	演習	
S0521000	ランドスケープ論	2						△				1	講義	
S0524000	建築計画 2	2						△				1	講義	
S0527000	空間保全再生計画	2						△				1	講義	※コース
S0530000	建築・都市法規	2						△				1	講義	
S0533000	都市開発マネジメント	2						△				1	講義	
S0536000	都市防災計画	2						△				1	講義	
S0539000	建築文化史	2						△				1	講義	
S0542000	近代建築史	2						△				1	講義	
S0545000	施工計画・管理	2						△				1	講義	

① APコース (2017年度入学生) (つづき)

◎ 必修科目 ○ コース必修
 1 選択必修科目 (1群) 2 選択必修科目 (2群) △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		授業コマ数	授業形態	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
S0548000	建築経済	2							△			1	講義	
S0551000	木造建築の設計	2							△			1	講義	
S0554000	建築構工法2	2							△			1	講義	
S0610000	建築家職能論	2								△		1	講義	
S0613000	卒業研究1	2							◎	◎		4	実習	
S0616000	卒業研究2	2							◎	◎		4	実習	
S0810000	国際プロジェクトA	1		△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)		1	実習	※集中
S0813000	国際プロジェクトB	1		△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)		1	実習	※集中
S0816000	インターンシップ1	1						△(不定)	△(不定)	△(不定)		1	実習	※集中
S0819000	インターンシップ2	1						△(不定)	△(不定)	△(不定)		1	実習	※集中
S0822000	海外建築研修	2				△						2	実習	※集中
S0825000	国内プロジェクト1	1		1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)		1	実習	※集中 ※コース
S0828000	国内プロジェクト2	1		1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)		1	実習	※集中 ※コース
S0831000	国内プロジェクト3	1		1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)		1	実習	※集中 ※コース
S0834000	国内プロジェクト4	1		1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)	1(不定)		1	実習	※集中 ※コース
S0837000	韓国建築実習A	2						2(不定)	2(不定)	2(不定)		2	実習	※集中
S0840000	韓国建築実習B	2						2(不定)	2(不定)	2(不定)		2	実習	※集中
S0843000	フランス建築実習A	2						2(不定)	2(不定)	2(不定)		2	実習	※集中
S0846000	フランス建築実習B	2						2(不定)	2(不定)	2(不定)		2	実習	※集中
S0849000	イタリア建築実習A	2						2(不定)	2(不定)	2(不定)		2	実習	※集中
S0852000	イタリア建築実習B	2						2(不定)	2(不定)	2(不定)		2	実習	※集中
S0855000	ロシア建築実習A	2						2(不定)	2(不定)	2(不定)		2	実習	※集中 ※コース
S0858000	ロシア建築実習B	2						2(不定)	2(不定)	2(不定)		2	実習	※集中 ※コース
S0861000	プロジェクト研究1	2				△						1	講義	※集中 ※コース
S0864000	プロジェクト研究2	2					△					1	講義	※集中 ※コース
S0867000	プロジェクト研究3	2						△				1	講義	※集中 ※コース

2 SAコース 2017年度入学生

◎ 必修科目 ○ コース必修科目 3 選択必修科目 (3群) △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		授業コマ数	授業形態	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
S0010001	建築デザイン基礎1	2		◎								3	演習	
S0013000	建築デザイン入門	2		△								1	講義	
S0016000	居住空間史	2		△								1	講義	
S0019000	力学の基礎	2		△								1	講義	
S0022000	デザイン史	2			△							1	講義	
S0025001	建築デザイン基礎2	2		◎								3	演習	
S0028000	空間建築デザイン演習1	2			△							2	演習	※コース
S0037000	建築の形態と空間	2			△							1	講義	
S0043000	建築環境工学1	2		◎								1	講義	
S0046000	構造力学・演習	3		◎								2	講義	
S0210000	住生活論	2				△						1	講義	
S0213000	空間建築デザイン演習2	2				○						3	演習	※コース
S0222001	CAD・CG演習	2				△						2	演習	
S0225000	建築設計計画論	2				△						1	講義	
S0231000	都市地域計画	2				△						1	講義	
S0237000	建築環境工学2	2				△						1	講義	
S0240001	材料力学・演習	3				△						2	講義	
S0243000	建築構造計画	2				△						1	講義	
S0246000	構造材料	2				△						1	講義	
S0249000	色彩・素材論	2					△					1	講義	
S0252000	建築環境心理学	2					△					1	講義	
S0255000	空間建築デザイン演習3	2					○					3	演習	※コース
S0267000	建築設計論	2					△					1	講義	※コース
S0273000	地域設計論	2					△					1	講義	
S0276000	建築史	2					△					1	講義	
S0279000	建築構法	2					△					1	講義	※コース
S0288000	BIM演習1	2					△					2	演習	
S0291000	建築設備	2					△					1	講義	
S0294001	建築構造解析・演習	3					△					2	講義	
S0297000	仕上げ材料	2					△					1	講義	
S0410000	空調システム計画	2						△				1	講義	
S0413000	都市環境設備計画	2						△				1	講義	
S0416000	空間建築デザイン演習4	2						△				3	演習	※コース
S0431000	近代建築と技術	2						△				1	講義	
S0437000	建築構法計画論	2						△				1	講義	
S0440000	建築法規	2						△				1	講義	
S0443000	都市住宅論	2						△				1	講義	
S0449000	日本建築史	2						△				1	講義	
S0452000	建築生産	2						△				1	講義	
S0458000	BIM演習2	2						△				2	演習	
S0464001	建築振動解析	2						△				1	講義	
S0467001	鉄筋コンクリート造の設計1	2						△				1	講義	
S0470000	鋼構造の設計	2						△				1	講義	

2 SAコース 2017年度入学生 (つづき)

◎ 必修科目 ○ コース必修科目 3 選択必修科目 (3群) △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		授業コマ数	授業形態	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
S0473001	建築環境実験	2						3				3	実験	
S0476001	建築材料施工実験	2						3				3	実験	
S0479001	建築構造実験	2						3				3	実験	
S0485001	プロジェクトゼミ	2							○			2	実習	
S0488000	建築英語	2							△			1	講義	
S0491000	G I S 演習	2							△			1	演習	
S0494000	建築音響計画	2							△			1	講義	
S0497000	給排水システム計画	2							△			1	講義	
S0500000	光環境計画	2							△			1	講義	
S0503000	基礎構造	2							△			1	講義	
S0506000	鉄筋コンクリート造の設計2	2							△			1	講義	
S0509000	マトリックス構造解析	2							△			1	講義	
S0512000	建築防災	2							△			1	講義	
S0515000	維持保全・改修	2							△			1	講義	
S0518000	空間地域デザイン演習	2							△			3	演習	※コース
S0521000	ランドスケープ論	2							△			1	講義	
S0539000	建築文化史	2							△			1	講義	
S0545000	施工計画・管理	2							△			1	講義	
S0551000	木造建築の設計	2							△			1	講義	
S0610000	建築家職能論	2								△		1	講義	
S0613000	卒業研究1	2								◎ ◎		4	実習	
S0616000	卒業研究2	2								◎ ◎		4	実習	
S0810000	国際プロジェクトA	1		△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)			1	実習	※集中
S0813000	国際プロジェクトB	1		△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)			1	実習	※集中
S0816000	インターンシップ1	1					△(不定)	△(不定)	△(不定)			1	実習	※集中
S0819000	インターンシップ2	1					△(不定)	△(不定)	△(不定)			1	実習	※集中
S0822000	海外建築研修	2					△					2	実習	※集中

3 UAコース 2017年度入学生

◎ 必修科目 ○ コース必修科目 4 選択必修科目 (4群) △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		授業コマ数	授業形態	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
S0010000	建築デザイン基礎1	2		◎								3	演習	
S0013002	建築デザイン入門	2		△								1	講義	
S0016000	居住空間史	2		△								1	講義	
S0019002	力学の基礎	2		△								1	講義	
S0022000	デザイン史	2			△							1	講義	
S0025000	建築デザイン基礎2	2		◎								3	演習	
S0031000	都市建築デザイン演習1	2			△							2	演習	※コース
S0037000	建築の形態と空間	2			△							1	講義	
S0040000	建築ものづくり	2			△							1	講義	
S0043000	建築環境工学1	2			◎							1	講義	
S0046000	構造力学・演習	3			◎							2	講義	
S0210000	住生活論	2					△					1	講義	
S0216000	都市建築デザイン演習2	2					○					3	演習	※コース
S0222002	CAD・CG演習	2					△					2	演習	
S0228000	建築計画1	2					△					1	講義	
S0231002	都市地域計画	2					△					1	講義	
S0234000	西洋建築史	2					△					1	講義	
S0237000	建築環境工学2	2					△					1	講義	
S0240000	材料力学・演習	3					△					2	講義	
S0243002	建築構造計画	2					△					1	講義	
S0246000	構造材料	2					△					1	講義	
S0249000	色彩・素材論	2						△				1	講義	
S0252000	建築環境心理学	2						△				1	講義	
S0258000	都市建築デザイン演習3	2						○				3	演習	※コース
S0264000	都市建築論	2						△				1	講義	
S0270000	地域マネジメント	2						△				1	講義	
S0282000	日本建築史	2						△				1	講義	
S0285000	木造建築	2						△				1	講義	
S0288000	BIM演習1	2						△				2	演習	
S0291000	建築設備	2						△				1	講義	
S0294000	建築構造解析・演習	3						△				2	講義	
S0297000	仕上げ材料	2						△				1	講義	
S0410000	空調システム計画	2							△			1	講義	
S0413000	都市環境設備計画	2							△			1	講義	
S0419000	都市建築デザイン演習4	2							△			3	演習	※コース
S0425000	都市地域デザイン演習	2							△			3	演習	※コース
S0434000	近代建築作家論	2							△			1	講義	
S0446000	都市デザイン論	2							△			1	講義	
S0455000	建築プロジェクトマネジメント	2							△			1	講義	
S0458000	BIM演習2	2							△			2	演習	
S0461000	建築構工法1	2							△			1	講義	
S0464002	建築振動解析	2							△			1	講義	

3 UAコース 2017年度入学生（つづき）

◎ 必修科目 ○ コース必修科目 4 選択必修科目（4群） △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	実施期	1年次		2年次		3年次		4年次		授業コマ数	授業形態	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
S0467002	鉄筋コンクリート造の設計1	2						△				1	講義	
S0470000	鋼構造の設計	2						△				1	講義	
S0473002	建築環境実験	2						4				3	実験	
S0482002	建築材料構造実験	2						4				3	実験	
S0485002	プロジェクトゼミ	2							○			2	実習	
S0488000	建築英語	2						△				1	講義	
S0491000	G I S 演習	2						△				1	演習	
S0494000	建築音響計画	2						△				1	講義	
S0497000	給排水システム計画	2						△				1	講義	
S0500000	光環境計画	2						△				1	講義	
S0503000	基礎構造	2						△				1	講義	
S0506000	鉄筋コンクリート造の設計2	2						△				1	講義	
S0509000	マトリックス構造解析	2						△				1	講義	
S0512000	建築防災	2						△				1	講義	
S0515000	維持保全・改修	2						△				1	講義	
S0524000	建築計画2	2						△				1	講義	
S0530000	建築・都市法規	2						△				1	講義	
S0533000	都市開発マネジメント	2						△				1	講義	
S0536000	都市防災計画	2						△				1	講義	
S0542000	近代建築史	2						△				1	講義	
S0548000	建築経済	2						△				1	講義	
S0554000	建築構工法2	2						△				1	講義	
S0613000	卒業研究1	2								◎ ◎		4	実習	
S0616000	卒業研究2	2								◎ ◎		4	実習	
S0810000	国際プロジェクトA	1		△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)			1	実習	※集中
S0813000	国際プロジェクトB	1		△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)	△(不定)			1	実習	※集中
S0816000	インターンシップ1	1						△(不定)	△(不定)			1	実習	※集中
S0819000	インターンシップ2	1						△(不定)	△(不定)			1	実習	※集中
S0822000	海外建築研修	2				△						2	実習	※集中
S0837002	韓国建築実習A	2						△(不定)				2	実習	※集中
S0840002	韓国建築実習B	2						△(不定)				2	実習	※集中
S0843002	フランス建築実習A	2						△(不定)				2	実習	※集中
S0846002	フランス建築実習B	2						△(不定)				2	実習	※集中
S0849002	イタリア建築実習A	2						△(不定)				2	実習	※集中
S0852002	イタリア建築実習B	2						△(不定)				2	実習	※集中

Ⅲ 特色ある科目

環境教育科目

大宮キャンパス環境方針の概要と 環境実践科目、環境教育科目、環境関連科目について

- 今日、環境問題は、身近なゴミや騒音の問題をはじめとして、地球規模での大気・海洋・土壌汚染、温暖化現象や酸性雨等による森林・生態系破壊、資源の枯渇化問題など、地球上の全ての生きものに対してその生存を脅かす事態に広がってきています。私たちには、これらのことを十分かつ正しく認識し、他の生きものと調和・共存し次世代にツケを回さない持続可能な社会を実現するために、環境に配慮した行動を実行することが求められています。
- 芝浦工業大学では、このような状況を真剣に受け止め、2001年3月、大宮キャンパスにおいて“ISO14001”の認証を取得し、この規格に基づき環境マネジメントシステムを運用してきました。
- また、本学は、「**グリーンキャンパスを目指して**」という目標を掲げ、環境保全・改善のための活動を関係構成員が一体となって展開し、環境汚染（マイナスの環境側面）防止に努め、大学本来の社会的使命である以下に示すようなプラスの環境側面の積極的増加に努めることを宣言しました。
- これにより、教育・研究を念頭においた本学の環境方針（目標）を示し、環境保全活動を展開する中で、環境教育カリキュラムの充実、環境を配慮またはそれに寄与するための研究活動の推進、学生の自主的環境活動の支援、および高い環境意識を持った学生を社会に輩出するための活動を行っています。
- こうした人材を育成するため、カリキュラムに、環境に関する科目の充実をしており、「**環境教育科目**」「**環境関連科目**」および「**環境実践科目**」を設定し、シラバスの中にその標記を付すことにしました。これらの科目の定義は、以下のとおりです。

■ 環境に関する科目

1. 環境実践科目	環境教育割合が100%であり、かつ環境に関連した“ものづくり”“まちづくり”や社会貢献を実践するために必要な知識やスキルの修得を目的とする科目。もしくはこれらの実践そのものを目的としており、学生が大学キャンパス内外において、電気・ガスなどのエネルギー消費や資源の消費、ゴミの排出等の環境負荷の抑制行動の実践を促進する科目。
2. 環境教育科目	環境教育割合が30%以上99%以下であり、かつ授業の全般にわたって、環境への有益面あるいは環境負荷など環境を主題としており、内容として、リサイクル、省エネルギー、資源、自然との共生などを扱った科目。ただし、心理環境、都市工学、住宅設計などで、景観、都市などの周辺を扱い、生物などに係わる直接の影響をもたらさない主題を扱った科目は除く。
3. 環境関連科目	環境教育割合が1%以上30%未満であり、かつ授業計画の一部に、環境への有益面あるいは環境負荷についての記述を有している科目。心理環境、都市工学、住宅設計などで、景観、都市などの周辺を扱い、生物などに係わる直接の影響をもたらさない主題を扱った科目も含む。

地域志向科目

文部科学省

地（知）の拠点整備事業と地域志向科目について

- 本学は、2013年度（平成25年度）文部科学省「地（知）の拠点整備事業」『「まちづくり」「ものづくり」を通じた人材育成推進事業』について、採択されました（申請数319件中採択数52件（私立大学では、180件中15件））。
- 国が設定する本事業の背景には、急激な少子高齢化、地域コミュニティの衰退、グローバル化によるボーダーレス化、新興国の台頭による国際競争の激化など、我が国が置かれている困難な状況に対し、全国のさまざまな地域発の特色ある取組を進化・発展させ、地域発の社会イノベーションや産業イノベーションを創出していくことが急務とされている、ということがあります。その中で、大学は、社会の変革を担う人材の育成などを重大な責務としており、目指すべき大学像として、学生がしっかり学び自らの人生と社会の未来を主体的に切り開く能力を培う大学、地域再生の核となる大学、社会の知的基盤としての役割を果たす大学などが挙げられています。
- 本学においては、建学の精神として「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」を掲げ、全学を挙げて教育・研究・社会貢献活動に邁進しているところであります。本事業の目的とするところは、本学の建学の精神と大きく符合し、「地域とともに生き、地域とともに学生を育む実践教育の場」として本事業をとらえ、応募・採択となりました。
- 具体的には、教育カリキュラムにおいて、地域の課題を取り上げ、課題解決をする科目を「地域志向科目」として設定し、多くの学生が地域の事例を通して実践的技術者たる実力を培う場を設けていくことといたします。「地域志向科目」の定義は以下のとおりです。

■ 「地域志向科目」の定義

1. 地域志向授業科目	主として、教室等の座学の授業で、地域の事例・課題等を取り上げたものをいいます。
2. 地域連携PBL	主として、フィールドワーク等の演習活動において、履修生のプロジェクトグループを複数作って、地域の事例・課題等についてプロジェクト検討させたものをいいます。
3. 地域志向卒論・修論・博論	テーマにおいて、地域の事例・課題を取り上げた研究論文をいいます。

社会的・職業的自立力育成科目

本学におけるキャリア教育と 社会的・職業的自立力を育成する科目について

- 皆さんは大学卒業後、あるいは大学院修了後、いずれは社会に出て、さまざまな役割を担いながら生きていくことになります。したがって、大学での学修は社会で活躍するための準備だということができます。社会に出た後の人生にも多くの分岐点があり、そのたびに大きな選択を迫られることになります。そのときに、賢い選択をするためには、生涯学び続けることが必要です。生涯学び続ける姿勢とその方法を身につけるのも、大学での学修の大切な目的のひとつです。
- 社会で活躍できる力、そして生涯学び続ける力、これらを養うために、専門科目では、それぞれの専門分野の視点から系統的なカリキュラムが組まれています。また共通教養科目では、世界や社会の枠組みという別の視点から幅広く学ぶカリキュラムが組まれています。しかし、皆一人ひとり、やりたいことや夢見ている将来の姿が違うので、それを実現するための道筋も一人ひとり違うはずです。したがって、折々に、自分の将来を見据えて学修過程を振り返り、学修計画を立て直すことも大切です。これが**キャリアの視点**での学修の進め方です。
- このようなキャリアの視点での学修を助けるために、各授業科目のシラバスには、社会で活躍するために必要な力の育成について、担当教員がどのように意識しているかが表示されています。キャリアの視点で捉えた社会で活躍するために必要な力は、**社会的・職業的自立力**と名付けられており、表-1のように4つの力で構成されています。この4つの力は、皆さんが定期的に、あるいは必要に応じて受検するPROGテストで測る基礎力にも対応しています。シラバスでは、この4つの力のそれぞれについて、育成を意識しているかどうかを示されています。キャリアの視点での学修の振り返りや学修計画の作成に際して、この社会的・職業的自立力育成に関する情報を参考にしてください。

〔表-1〕社会的・職業的自立力を構成する4つの力

社会的・職業的自立力	定義	PROGで測る力	定義	
知識活用力	知識を活用して課題を解決する力	リテラシー	情報収集力	課題発見・解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力
			情報分析力	事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的かつ多角的に整理・分析しそれらを統合して隠れた構造をとらえて本質を見極める力
			課題発見力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実をとらえ、その背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力
			構想力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処法を構想する力
対人基礎力	他人からの信頼を築き、チームを動かす力	コンピテンシー	親和力	多様な考えを受け入れ、相手の立場に立って考えることで信頼を引き出し、人間関係を構築していく力。また、自分から積極的に人間関係を築いていく力
			協働力	周囲と情報を共有し、周りのやる気を引き出して協力して課題に取り組み、また、リーダー的立場からメンバーを指導し、チームや後輩の意欲を高めていく力
			統率力	異なる意見にも耳を傾ける一方で、自分の意見も主張しながら、交渉や討議を建設的に進めていく力
対自己基礎力	自分の感情をコントロールし、主体的に行動する力	コンピテンシー	感情抑制力	ストレスのかかる場面でも自分の気持ちや感情を把握した上で状況を前向きに捉え、困難に挑戦していく力
			自信創出力	自分の強みや弱みといった自身の特徴を理解し、自分に自信を持っていると同時に、機会を捉えて自分を向上させようとする力
			行動持続力	自分なりのルールや決まりを作りながら、最後まで粘り強く責任を持って物事に取り組む力。自分にとって必要だと思う事柄に継続して取り組んでいく力
対課題基礎力	課題解決に向けて、計画し行動する力	コンピテンシー	課題発見力	さまざまな角度から適切な情報源と手段で情報を収集し、広い視野から現象や事実をとらえ、そのメカニズムや原因について考察して、解決すべき課題を発見する力
			計画立案力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処法を構想する力
			実践力	目標達成に向けて自ら行動し、予測した先行きに合わせて全体の動きを調整しながら、早めに行動を修正し、実行する力

- 昨今の変化の激しい世の中を生き抜くためには、専門分野の知識や技能だけでなく、「前に踏み出す力（主体的に学ぶ力、実行力、など）」、「考え抜く力（課題発見・解決力、など）」、「多様な人々と協働して働く力（チームワーク力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、など）」などの「社会人基礎力・汎用的能力」を鍛える必要があります。これらの能力は、近年では企業が人材を採用するにあたり重視する傾向にあります。
- 本学のプログラムにある『アクティブ・ラーニング科目』およびキャリア教育の『社会的・職業的自立力育成科目』を履修していくことで、社会を生き抜き、社会に貢献する人材となるのに必要な、社会人基礎力や基礎的・汎用的能力を身につけることができます。
- 例えば、下図は、これらの科目を履修することで、社会人基礎力・汎用的能力が向上することを示しています。学生の皆さんは、学科のカリキュラムマップを参考にして、知識や技能だけでなく社会人基礎力も鍛えるように、履修計画を立ててください。

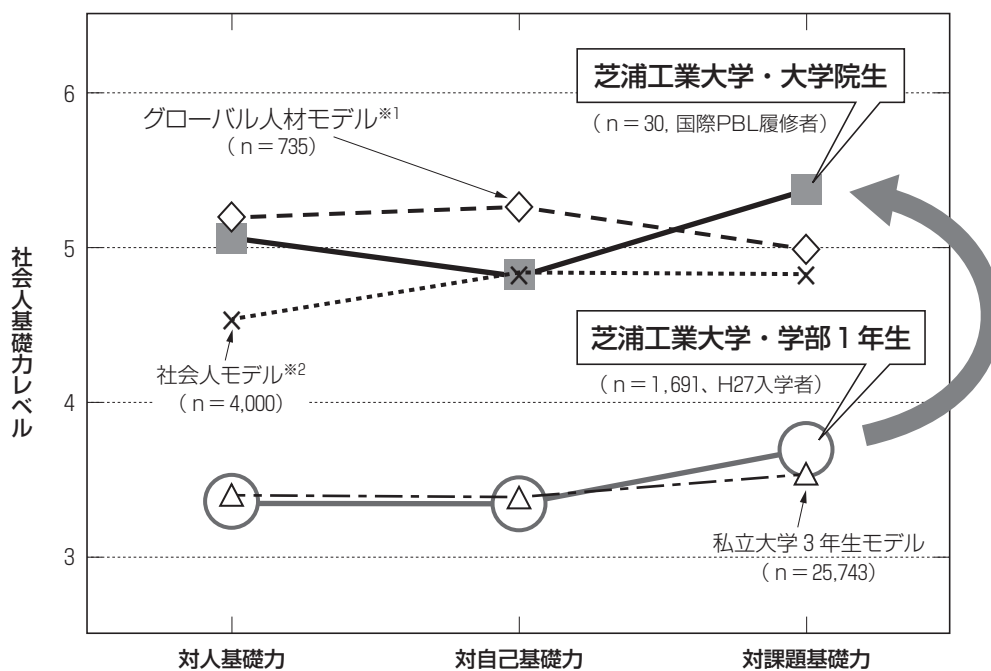


図 『アクティブ・ラーニング科目』およびキャリア教育の『社会的・職業的自立力育成科目』を履修した学生の社会人基礎力の向上例

※1 グローバル人材モデル：25歳～49歳の日本人ビジネスパーソン、アジアにおいて、外国人のマネジメント経験が2年以上あり、そのマネジメントに満足している者
 ※2 社会人モデル：20代後半から30代前半にかけて課長、もしくはチームをマネジメントしている若手ビジネスパーソン

アクティブ・ラーニング科目

アクティブ・ラーニング科目A, B, Cについて

- 今日、大学での教育は「何を教えたか」から「何を学んだか」へと、大学教育の主体や成果に関する指標が大きく変化してきています。これは、従来の知識修得型授業だけではなく、その修得した知識を活用する能力の育成も大学教育に求められていることを意味します。以下は、平成25年5月に教育再生実行会議から出された提言の一部です。
- 社会において求められる人材が高度化・多様化する中、大学は、教育内容を充実し、学生が徹底して学ぶことのできる環境を整備する必要があります。(中略) 大学は、課題発見・探求能力、実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」などの社会人として必要な能力を有する人材を育成するため、学生の能動的な活動を取り入れた授業や学習法(アクティブ・ラーニング)、双方向の授業展開など教育方法の質的転換を図る。また、授業の事前準備や事後展開を含めた学生の学修時間の確保・増加、学修成果の可視化、教育課程の体系化、組織的教育の確立など全学的教学マネジメントの改善を図るとともに、厳格な成績評価を行う。国は、こうした取組を行う大学を重点的に支援し、積極的な情報公開を促す。企業、国は、学生の多彩な学修や経験も評価する。
- 芝浦工業大学は、平成26年度に文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)」に採択されました。今回採択されたプログラムでは、建学の精神「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」の下に、「総合的問題解決能力を備えた世界(社会)に貢献できる技術者」の育成を教育目標として定め、学生の主体的な学びを促し、学修成果の可視化に取り組んでいます。
- 本学では実験、実習、演習、PBL(Project/Problem-Based Learning | 課題解決型学修)を通して学生が意欲的に学修に取り組める環境整備を進めており、このようなアクティブ・ラーニングを、全学部で4年間の体系的かつ組織的な教育プログラムとして構築します。また、講義科目へのアクティブ・ラーニングの導入により学生の意欲を高めるため、学修マネジメントシステム(LMS)と連携した、双方向システムの導入整備を進めます。

そこで、アクティブ・ラーニングの更なる導入・進展を図るために、2015年度から「アクティブ・ラーニング科目A,B,C」を設定し、シラバスにその標記を付すことにしました。これらの科目の定義は以下のとおりです。

■ 科目の定義

アクティブ・ラーニング科目A	学修者の能動的な学修への参加による授業が大部分の科目
アクティブ・ラーニング科目B	学修者の能動的な学修への参加による授業が概ね半数を超える科目
アクティブ・ラーニング科目C	各科目の中で1コマ分以上、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた授業を行う科目

IV 資格の取得

1 取得できる主な資格

資格・免許の種類	取得条件等 (①資格取得可能 or 受験資格取得可能) (②: 取得の要件)	関連機関	備考
一級建築士	①受験資格取得可能 ②指定科目の単位を取得して卒業後、所定の建築に関する実務経験を経て受験資格を得られる。	(公財) 建築技術教育普及センター	※指定科目等についてはp.63～66参照
二級建築士	①受験資格取得可能 ②指定科目の単位を取得して卒業後、所定の建築に関する実務経験を経て受験資格を得られる。	(公財) 建築技術教育普及センター	※指定科目等についてはp.63～66参照
木造建築士	①受験資格取得可能 ②指定科目の単位を取得して卒業後、所定の建築に関する実務経験を経て受験資格を得られる。	(公財) 建築技術教育普及センター	※指定科目等についてはp.63～66参照
1級施工管理技士 (建設施工・建設機械施工・ 電気工事施工・造園施工・ 管工事施工・土木施工)	①受験資格取得可能 ②卒業後3年以上の実務経験により、受験資格を得られる。	(株) 建設管理センター	
2級施工管理技士 (建設施工・建設機械施工・ 電気工事施工・造園施工・ 管工事施工・土木施工)	①受験資格取得可能 ②卒業後1年以上の実務経験により、受験資格を得られる。	(株) 建設管理センター	
コンクリート技士・ 主任技士	①受験資格取得可能 ②コンクリート技術に関する科目の単位を取得し、技士は卒業後2年以上の実務経験、主任技士は4年以上の実務経験、により受験資格を得られる。	(公社) 日本コンクリート工学会	※指定科目については試験実施団体に確認すること。
建築設備士	①受験資格取得可能 ②卒業後2年以上の建築設備に関する実務経験により、受験資格を得られる。	(公財) 建築技術教育普及センター	
建築積算士補	①資格取得可能 ②専門科目「建築経済」の単位を取得することにより資格取得が可能。	(公社) 日本建築積算協会	

2 建築士（一級建築士、二級・木造建築士）

- 一級または二級・木造建築士試験の受験にあたっては、建築士法の改正にともない、平成21年度以降の入学者は、国土交通大臣の指定する建築に関する科目（以下「指定科目」という）を修めて卒業したのち、建築に関する実務として国土交通省令で定めるものの経験（以下「実務経験」という）を政令所定の年数以上有することが求められています。
- 受験に必要な科目については、必ず履修しなければならない分野別の単位数（指定必修科目・単位）とそれ以外の「指定科目」を含めた総単位数が定められており、その詳細は次の表のとおりです。なお資格によって必要科目、単位数が異なり、修得科目・単位数によっては受験資格が得られない場合もあります。
- 建築学部建築学科の場合は、下記表の所定の単位数以上を修得することにより、卒業後所定の建築実務経験があれば、一級、または二級・木造建築士試験を受けることが可能となります。下表の「指定科目分類」と建築学科各コースの科目との対応は、次ページ以降で確認してください。

国土交通省指定科目分類	一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
	7単位	7単位	7単位	5単位	5単位	5単位
①建築設計製図	7単位	7単位	7単位	5単位	5単位	5単位
②建築計画	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位
③建築環境工学	2単位	2単位	2単位			
④建築設備	2単位	2単位	2単位			
⑤構造力学	4単位	4単位	4単位	6単位	6単位	6単位
⑥建築一般構造	3単位	3単位	3単位			
⑦建築材料	2単位	2単位	2単位			
⑧建築生産	2単位	2単位	2単位	1単位	1単位	1単位
⑨建築法規	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
指定必修科目の総単位数(a)	30単位	30単位	30単位	20単位	20単位	20単位
指定必修科目以外の総単位数(b)	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a)+(b)	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
建築実務の経験	2年	3年	4年	0年	1年	2年

- この表の「指定必修科目」とは、建築士受験資格を得るために単位修得が必須の科目であり、この「学修の手引」の「必修科目」とは異なるので注意してください。

■ 2017年（H29年）入学者用 建築士試験受験要件 指定科目一覧表

国交省指定科目の分類（要件単位数）		指定科目として開講する科目				
二級・木造建築士	一級建築士	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	コース科目
①建築設計製図 (5単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	建築デザイン基礎1	1	必修	2	
		建築デザイン基礎2	1	必修	2	
		建築スタジオ演習1	1	選択	2	AP
		空間建築デザイン演習1	1	選択	2	SA
		都市建築デザイン演習1	1	選択	2	UA
		建築スタジオ演習2	2	選択	2	AP
		空間建築デザイン演習2	2	選択	2	SA
		都市建築デザイン演習2	2	選択	2	UA
		CAD・CG演習	2	選択	2	
		建築スタジオ演習3	2	選択	2	AP
		空間建築デザイン演習3	2	選択	2	SA
		都市建築デザイン演習3	2	選択	2	UA
		建築スタジオ演習4	3	選択	2	AP
		空間建築デザイン演習4	3	選択	2	SA
		都市建築デザイン演習4	3	選択	2	UA
		都市地域デザイン演習	3	選択	2	UA
		フランス建築実習A	3	選択	2	AP
		フランス建築実習B	3	選択	2	AP
		韓国建築実習A	3	選択	2	AP
		韓国建築実習B	3	選択	2	AP
		イタリア建築実習A	3	選択	2	AP
		イタリア建築実習B	3	選択	2	AP
		ロシア建築実習A	3	選択	2	AP
ロシア建築実習B	3	選択	2	AP		
②～④ 建築計画、建築環境 工学又は建築設備 (7単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	居住空間史	1	選択	2	
		建築の形態と空間	1	選択	2	
		建築設計計画論	2	選択	2	SA
		建築計画1	2	選択	2	UA
		西洋建築史	2	選択	2	UA
		住生活論	2	選択	2	
		建築設計論	2	選択	2	SA
		都市建築論	2	選択	2	UA
		建築史	2	選択	2	SA
		日本建築史	2～3	選択	2	
		建築環境心理学	2	選択	2	
		近代建築作家論	3	選択	2	UA
		建築構法計画論	3	選択	2	SA
		都市住宅論	3	選択	2	SA
		建築文化史	3	選択	2	SA
		近代建築史	3	選択	2	UA
		建築計画2	3	選択	2	UA

国交省指定科目の分類 (要件単位数)		指定科目として開講する科目				
二級・木造建築士	一級建築士	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	コース科目
②～④ 建築計画、建築環境工学又は建築設備 (7単位以上)	③建築環境工学 (2単位以上)	建築環境工学1	1	必修	2	
		建築環境工学2	2	選択	2	
		建築環境実験	3	選択	2	
		光環境計画	3	選択	2	
		建築音響計画	3	選択	2	
	④建築設備 (2単位以上)	建築設備	2	選択	2	
		空調システム計画	3	選択	2	
		都市環境設備計画	3	選択	2	
		給排水システム計画	3	選択	2	
⑤～⑦ 構造力学、建築一般構造又は建築材料 (6単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	力学の基礎	1	選択	2	
		構造力学・演習	1	必修	3	
		材料力学・演習	2	選択	3	
		建築構造解析・演習	2	選択	3	
		建築振動解析	3	選択	2	
		マトリックス構造解析	3	選択	2	
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	建築構造計画	2	選択	2	
		建築構法	2	選択	2	SA
		建築構工法1	3	選択	2	UA
		建築構造実験	3	選択	2	SA
		鋼構造の設計	3	選択	2	
		鉄筋コンクリート造の設計1	3	選択	2	
		建築構工法2	3	選択	2	UA
		鉄筋コンクリート造の設計2	3	選択	2	
		木造建築の設計	3	選択	2	SA
		基礎構造	3	選択	2	
	⑦建築材料 (2単位以上)	構造材料	2	選択	2	
		仕上げ材料	2	選択	2	
		木造建築	2	選択	2	UA
		建築材料構造実験	3	選択	2	UA
建築材料施工実験		3	選択	2	SA	
⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	建築ものづくり	1	選択	2	UA
		建築生産	3	選択	2	SA
		建築プロジェクトマネジメント	3	選択	2	UA
		施工計画・管理	3	選択	2	SA
		建築経済	3	選択	2	UA

国交省指定科目の分類（要件単位数）		指定科目として開講する科目				
二級・木造建築士	一級建築士	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	コース科目
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	建築法規	3	選択	2	SA
		建築・都市法規	3	選択	2	UA
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	建築デザイン入門	1	選択	2	
		デザイン史	1	選択	2	
		プロジェクト研究1	2	選択	2	AP
		都市地域計画	2	選択	2	
		プロジェクト研究2	2	選択	2	AP
		地域設計論	2	選択	2	SA
		地域マネジメント	2	選択	2	UA
		BIM演習2	3	選択	2	
		色彩・素材論	2	選択	2	
		空間情報デザイン演習	3	選択	2	AP
		プロジェクト研究3	3	選択	2	AP
		近代建築と技術	3	選択	2	SA
		都市デザイン論	3	選択	2	UA
		空間地域デザイン演習	3	選択	2	SA
		ランドスケープ論	3	選択	2	SA
		都市開発マネジメント	3	選択	2	UA
		都市防災計画	3	選択	2	UA
		空間保全再生計画	3	選択	2	AP
		建築防災	3	選択	2	
		維持保全・改修	3	選択	2	
		建築家職能論	4	選択	2	SA
		国内プロジェクト1	1～3	選択	1	AP
		国内プロジェクト2	1～2	選択	1	AP
		国内プロジェクト3	1～3	選択	1	AP
		国内プロジェクト4	2～4	選択	1	AP
		国際プロジェクトA	1～4	選択	1	
国際プロジェクトB	1～4	選択	1			
インターンシップ1	3	選択	1			
インターンシップ2	3	選択	1			
40単位以上 実務経験0年 30単位以上 実務経験1年 20単位以上 実務経験2年	60単位以上 実務経験2年 50単位以上 実務経験3年 40単位以上 実務経験4年	要件 ①～⑨の各区分で（ ）に示された単位を履修すること。 ①～⑩の合計単位数に応じ、左記の実務経験が必要				

注意) 本表は学科のカリキュラム変更にあわせて変更されます。変更内容は、ガイダンス、掲示などにより通知しますので、それにしたがってください。

2017年度

学修の手引

建築学部

2017年4月1日発行

編集発行 芝浦工業大学 豊洲学事部学生課

WebシラバスURL <http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp>

豊洲キャンパス 〒135-8548 東京都江東区豊洲3丁目7番5号
TEL. 03-5859-7370 (ダイヤルイン)

大宮キャンパス 〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地
TEL. 048-687-5105 (ダイヤルイン)

芝浦キャンパス 〒108-8548 東京都港区芝浦3丁目9番14号
TEL. 03-6722-2600 (ダイヤルイン)



芝浦工業大學

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927